

高幡地域アクションプランの追加、削除、拡充等  
(予定項目)

高 幡 地 域 本 部

令和5年2月6日(月)



# 地域アクションプランの令和5年度の追加・削除等(予定項目)

## 地域アクションプランへの支援の方向性

新規事業の掘り起こしや既存事業が抱える課題の解決を図りながら、地域アクションプランの実現に向けて、産業振興推進地域本部を中心に取り組みを推進していく。

### (1) 新規事業の掘り起こし

発掘支援型アドバイザーと連携して、地域アクションプランへの位置付けを目指す取り組みを掘り起こし

### (2) 課題解決に向けた支援

①課題解決型アドバイザーと連携して、個別課題の解決を支援

②課題一貫支援型アドバイザーと連携して、地域への経済波及効果大きい案件に対し、全体的な課題の整理・分析及び解決策の検討を一貫して支援

## 地域アクションプランの増減 (▲1)

### (1) 追加(新規) : 3件

- 仁淀川町滞在交流型観光の推進(仁淀川町)
- 梶原町産の桜を活用した加工品等の生産・販路の拡大(梶原町)
- 地元食材を活用した加工品の開発・製造による地産地消・外商の推進(四万十市)

### (2) 削除(廃止) : ▲2件

- 温泉開発による観光地としての魅力向上(高知市)
- 須崎市養殖漁業等のさらなる振興(須崎市)

### (3) 統合 : ▲2件

- 仁淀川町での観光情報の発信強化と受入れ体制の充実(仁淀川町)  
→仁淀川町滞在交流型観光の推進(仁淀川町)へ統合
- 「黒潮本陣」を核とした滞在型観光推進(中土佐町)  
→中土佐町の地域資源を活用した体験型・滞在型観光の推進(中土佐町)へ統合

## 地域アクションプラン数 R4年度 218件 → R5年度 217件 (▲1)

	R4年度 (第4期Ver.3)	R5年度 (第4期Ver.4)				AP数
	AP数 R5.1月時点	増減				
		追加	削除	統合	計	
安芸	30					30
物部川	24					24
高知市	22		▲1		▲1	21
嶺北	24					24
仁淀川	34	1		▲1		34
高幡	40	1	▲1	▲1	▲1	39
幡多	44	1			1	45
合計	218	3	▲2	▲2	▲1	217

○地域産業クラスタープロジェクト R4年度 18件 → R5年度 17件 (▲1)

# 高幡地域アクションプラン項目（第4期計画Ver.3（R4年度）と

No.	現在(令和4年度)	須崎市	中土佐町	梶原町	津野町	四万十町
		7	10	8	8	15
1	くろしおミヨウガ生産拡大クラスタープロジェクト	●	●		●	
2	大野見米のブランド化		●			
3	梶原産キジ肉の加工・販売の拡大			●		
4	梶原産肉用牛の生産拡大による地域産業の活性化			●		
5	つの茶販売戦略				●	
6	四万十のうまい栗クラスタープロジェクト					●
7	四万十町畑作振興プロジェクト					●
8	四万十のうまい豚クラスタープロジェクト					●
9	四万十次世代ハウス団地におけるトマト栽培の経営強化クラスタープロジェクト					●
10	「四万十ヒノキ」をはじめとする地域森林資源の販売促進		●			●
11	「1億円産業の復活」をスローガンとする津野山産原木シイタケの産地化の推進			●	●	
12	循環型社会を推進するための梶原町森林資源の有効活用			●		
13	津野町森林・林業再生プロジェクト				●	
14	浦ノ内湾産養殖マダイ等の販路拡大	●				
15	須崎市養殖漁業等のさらなる振興	●				
16	アメガ養殖事業の再生拡大			●		
17	葉にんにくを活用した加工食品の生産・販売の拡大	●				
18	中土佐町地域ブランドの創出と販売促進		●			
19	大正町市場商店街活性化事業		●			
20	中土佐町SEAプロジェクト		●			
21	中土佐町地産外商の取り組み		●			
22	梶原町地場産品の地産地消・外商の促進			●		
23	津野町地産地消・外商販売戦略				●	
24	四万十町地域資源活用推進と豚まん加工場等の整備					●
25	四万十町産鶏卵を使用した加工品の生産拡大					●
26	四万十町産生姜生産農家と連携した集出荷体制の整備と商品開発					●
27	四万十町産材を活用した商品開発プロジェクト					●
28	四万十うなぎを活用した加工場整備と販路拡大					●
29	高幡地域における広域観光の推進	●	●	●	●	●
30	須崎市海のまちプロジェクト	●				
31	浦ノ内マリパークにおける交流人口の拡大による地域の活性化	●				
32	中土佐町の地域資源を活用した体験型・滞在型観光の推進		●			
33	「黒潮本陣」を核とした滞在型観光推進		●			
34	梶原町の体験型・滞在型観光の推進			●		
35	清流と風と歴史に会えるまち津野町まるごと体感！～観光集客アップ作戦～				●	
36	四国カルストを核とした交流人口の拡大と地域の活性化プロジェクト				●	
37	わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり					●
38	四万十町観光交流促進事業					●
39	四万十町オアシス風観光交流拠点整備事業					●
40	ジップラインと道の駅を核とした四万十町(十和地区)の観光拠点施設整備事業					●

①削除

# 第4期計画Ver. 4 (R5年度) の対比表

【高幡地域】

	須崎市	中土佐町	梶原町	津野町	四万十町	No.	改定案(令和5年度)
	6	9	9	8	15		
①拡充	●	●		●		1	くろしおミヨウガ生産拡大クラスタープロジェクト
		●				2	大野見米のブランド化
			●			3	梶原産キジ肉の加工・販売の拡大
			●			4	梶原産肉用牛の生産拡大による地域産業の活性化
				●		5	つの茶販売戦略
					●	6	四万十のうまい栗・芋クラスタープロジェクト
					●	7	四万十町畑作振興プロジェクト
					●	8	四万十のうまい豚クラスタープロジェクト
					●	9	四万十次世代ハウス団地におけるトマト等栽培の経営強化クラスタープロジェクト
		●			●	10	「四万十ヒノキ」をはじめとする地域森林資源の販売促進
			●	●		11	「1億円産業の復活」をスローガンとする津野山産原木シイタケの産地化の推進
			●			12	循環型社会を推進するための梶原町森林資源の有効活用
				●		13	津野町森林・林業再生プロジェクト
		●				14	浦ノ内湾産養殖マダイ等の販路拡大
①追加			●			15	アメガ養殖事業の再生拡大
	●					16	葉にんにくを活用した加工食品の生産・販売の拡大
		●				17	中土佐町地域ブランドの創出と販売促進
		●				18	大正町市場商店街活性化事業
		●				19	中土佐町SEAプロジェクト
		●				20	中土佐町地産外商の取り組み
			●			21	梶原町地場産品の地産地消・外商の促進
			●			22	梶原町産の桜を活用した加工品等の生産・販路の拡大
				●		23	津野町地産地消・外商販売戦略
					●	24	四万十町地域資源活用推進と豚まん加工場等の整備
					●	25	四万十町産鶏卵を使用した加工品の生産拡大
①統合					●	26	四万十町生姜生産農家と連携した集出荷体制の整備と商品開発
					●	27	四万十町産材を活用した商品開発プロジェクト
					●	28	四万十うなぎを活用した加工場整備と販路拡大
	●	●	●	●	●	29	高幡地域における広域観光の推進
	●					30	須崎市海のまちプロジェクト
	●					31	浦ノ内マリパークにおける交流人口の拡大による地域の活性化
	→	●				32	中土佐町の地域資源を活用した体験型・滞在型観光の推進
			●			33	梶原町の体験型・滞在型観光の推進
				●		34	清流と風と歴史に会えるまち津野町まるごと体感！～観光集客アップ作戦～
				●		35	四国カルストを核とした交流人口の拡大と地域の活性化プロジェクト
				●	36	わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり	
				●	37	四万十町観光交流促進事業	
				●	38	四万十町オアシス風観光交流拠点整備事業	
				●	39	ジップラインと道の駅を核とした四万十町(十和地区)の観光拠点施設整備事業	



## 高幡地域アクションプランの追加・削除・拡充等（予定項目）

### ■追加

NO.	アクションプラン名	事業概要
1	梶原町産の桜を活用した加工品等の生産・販路の拡大	梶原町産の桜等を活用して、魅力的な商品の開発、加工、販売に取組み、「梶原町産の桜商品」の知名度の向上と、地域の雇用創出を目指す。

### ■削除

NO.	アクションプラン名	削除する理由
1	No. 15 須崎市養殖漁業等のさらなる振興	<p>新たな水産加工施設を核として水産物の加工・販売を促進することで、地域の養殖漁業者の所得向上や、雇用創出を目指す取組であったが、取り組みを進めていく過程で、地域の漁業者からの原魚確保が困難なこと等が判明した。</p> <p>今後、当プランの事業の柱であった地域資源を活用した水産加工施設の建設が見込めないことから削除とする。</p>

### ■その他（拡充、統合、分割）

NO.	アクションプラン名	見直しする内容
1	<p>No. 6 四万十のうまい栗クラスタープロジェクト（四万十町）</p> <p>【実施主体】四万十の栗再生プロジェクト推進協議会、(株)無手無冠、清流栗庵</p>	<p>【拡充】栗の生産から流通販売まで多岐にわたる関係者で進めている取り組みに、新たに芋の生産拡大および加工販売を加え「四万十のうまい栗・芋クラスタープロジェクト（仮）」として拡充する。また、実施主体に(株)四万十ドラマ、しまんと新一次産業(株)を加える。</p>
2	<p>No. 32 中土佐町の地域資源を活用した体験型・滞在型観光の推進（中土佐町）</p> <p>【実施主体】中土佐町</p> <p>No. 33 「黒潮本陣」を核とした滞在型観光推進（中土佐町）</p> <p>【実施主体】中土佐町、(株)中土佐町地域振興公社</p>	<p>【統合】黒潮本陣は R4 年度中に施設の改修を完了予定。今後は、周辺施設との連携を強化し、体験型・滞在型観光の推進の核となる施設として推進していくことから「中土佐町の地域資源を活用した体験型・滞在型観光の推進」に統合する。</p>

# 追加項目（案）

追加

高幡地域アクションプラン

分野

商工業

<b>AP 名 (実施地域)</b>	<b>No.22 梶原町産の桜を活用した加工品等の生産・販路の拡大 (梶原町)</b>
<b>実施主体</b>	桜 club
<b>AP への 位置づけ</b>	R5.4月
<b>事業概要</b>	梶原町産の桜等を活用して、商品の開発・加工・販売に取組み、「梶原町産桜商品」の知名度のさらなる向上を目指すと共に、地域での雇用の創出を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高※	250万円 (R4見込)	-	-		400万円

※1月～12月

## これまでの主な動き

<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆<b>新事業の展開</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・桜商品の加工販売に専念し、繁忙期には地元アルバイトを10人程度雇用して、「コンフィチュール」「桜シロップ」等を中心に事業を展開する。(R2～)</li> <li>・「発掘支援アドバイザー」の支援を得ながら、事業構想を固める。(R3～R4)</li> </ul> <p>◆<b>既存商品の販路拡大</b> (R4年度の販売実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「桜商品、業務用桜商品(売上額：127万円)</li> <li>・「ケーキ、焼き菓子」：(売上額：98万円)</li> </ul> <p>(販路)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マルシェゆすはら、満天の星、アグリコレット、通販、ふるさと納税、桜いろ、かしこ、(株)G&amp;F、土佐蒲鉾、フランス、シンガポール</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・にっぽんの宝物高知大会で桜ジュレraisプリン(※)が新体験部門グランプリを受賞(R4.11月)→R5年2月にJAPAN大会出場</li> <li>※桜の花コンフィチュールと桜のシロップの商品化出来ない物をSDGsに考慮して開発したスイーツ</li> <li>・食べるジャパン美味アワード(桜のコンフィチュール 認定)(R4.11月)→R5.1月に地域のかがやき賞受賞</li> </ul>	<p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産施設である加工場が、自宅民宿の台所を利用している状況であり、大幅な増産や発注先が求める衛生基準に対応できない。</li> <li>・商談会等への積極的な参加により、受注は増加し、取引開始の検討のための視察申し込みなどがあるが、大量の受注への対応やHACCP対応が出来ていない。</li> <li>・安定的な原料(「桜」や「レモン」)の確保</li> <li>・人材の確保(事業のパートナー、繁忙期のパート雇用)</li> </ul>
--	---



第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆加工品製造施設の整備				<p><b>加工場の建設検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●桜 club : 加工施設建設の検討・実施</li> <li>●梶原町・県(地域本部等) : 各種支援制度に関する情報提供</li> </ul> <p><b>地域の加工施設の活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●桜 club : 地域と連携した加工施設の活用</li> <li>●梶原町・県(地域本部等) : 各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>	
◆商品開発・販路開拓				<p><b>新商品の開発とブラッシュアップ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●桜 club : 新たな商品の開発</li> <li>●梶原町・県(地域本部等) : 各種支援制度に関する情報提供</li> </ul> <p><b>販路の開拓</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●桜 club : 県内外のニーズの情報収集と商談会等への出展</li> <li>●梶原町・県(地域本部等) : アドバイザーの導入提案</li> </ul>	
◆事業実施体制の構築と人材の確保				<p><b>法人化の検討</b></p> <p><b>事業のパートナー等の確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●桜 club : 実施主体の構築(法人化の検討)</li> <li>●梶原町・県(地域本部等) : 関係機関(中央会等)への橋渡し</li> </ul>	

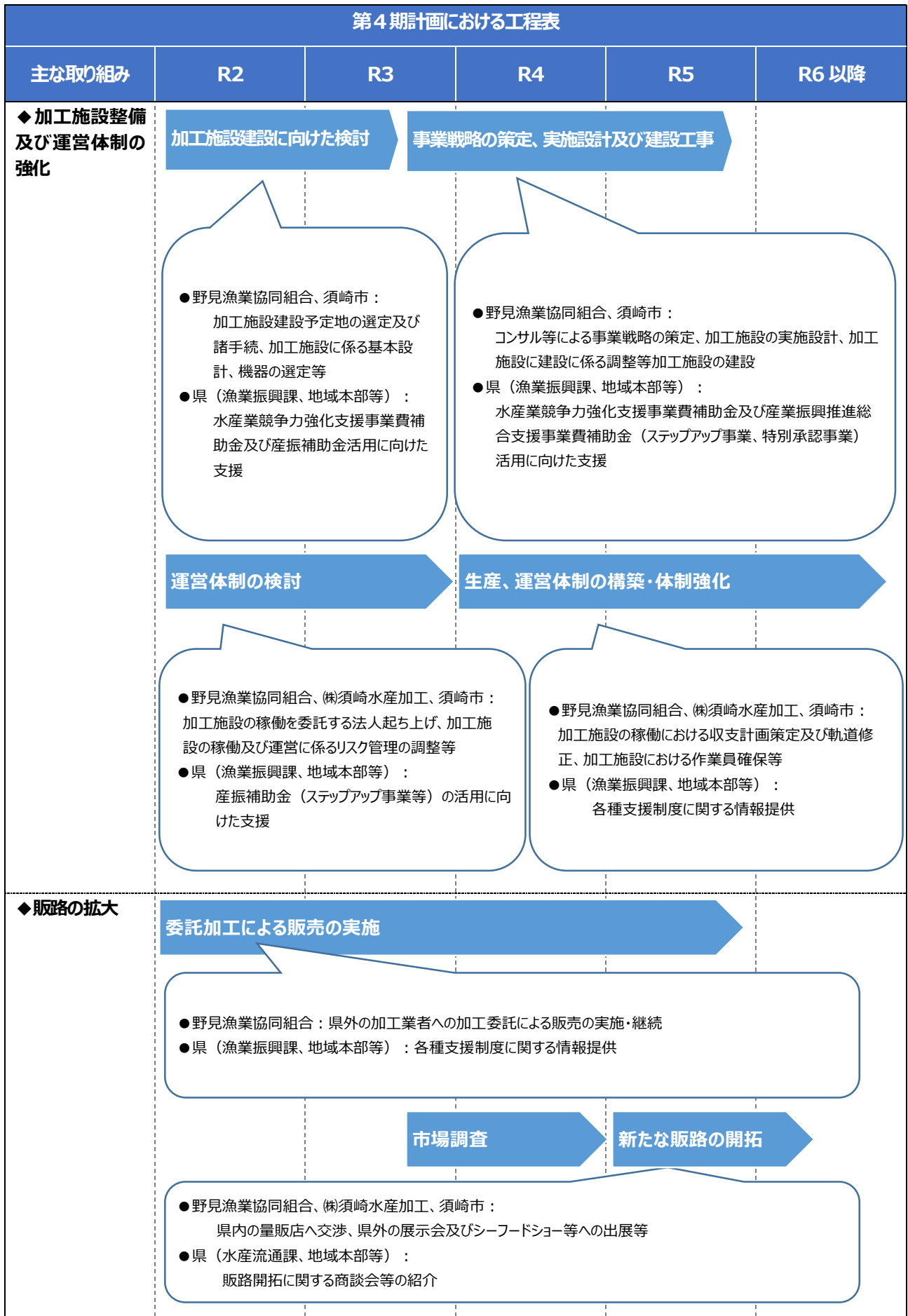
# 削除項目（案）

削除

高幡地域アクションプラン		分野	水産
<b>AP 名</b> (実施地域)	<b>No.15 須崎市養殖漁業等のさらなる振興</b> (須崎市)		
<b>実施主体</b>	◎野見漁業協同組合、(株)須崎水産加工、須崎市		
<b>AP への位置づけ</b>	R4.4月		
<b>事業概要</b>	須崎市の地域資源である養殖漁業等の振興に向け、新たな水産加工施設を核として、水産物の加工・販売を促進することにより、漁業所得の向上や地域内での雇用創出を目指す。		

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
新たな加工施設による売上高 (1～12月)	- (R2)	-	-	17,000千円 (R5.11 竣工予定)

これまでの主な動き	
<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆加工施設整備に向けた検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先進地視察 6回（7施設）（R3）</li> <li>・関係者協議 15回（R3）</li> <li>・加工機械のPRイベント参加（プロトン凍結機）</li> </ul> <p>◆運営体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営主体となる組織体制の検討（R2）</li> <li>・専任職員の検討（R3）</li> </ul> <p>◆販路の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと納税や須崎市内地域商社と連携したEC販売（R2）</li> <li>・県外業者への加工委託による1次加工商品の販売（R2）</li> <li>・「須崎勘八」ブランド化の取組（R2）</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加工委託による売上高 R2：238,932千円（R2.6～12） R3：110,757千円（R3.1～11）</li> <li>・運営を行う(株)須崎水産加工の設立（R3.7）</li> <li>・漁協内に加工場事業に関する専任職員の雇用1名（R3.11）</li> </ul>	<p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <p>県外への加工委託によるデメリットの発生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輸送コストの増加</li> <li>・燃料代と輸送量の費用対効果による出荷制限</li> </ul> <p>新たな事業であるが地元での雇用につながっていない</p>



# 拡充項目（案）

修正前

高幡地域アクションプラン

分野

農業

<b>AP 名 (実施地域)</b>	<b>No.6 四万十のうまい栗クラスタープロジェクト</b> (四万十町)
<b>実施主体</b>	◎四万十の栗再生プロジェクト推進協議会、(株)無手無冠、清流栗庵
<b>AP への 位置づけ</b>	H22.4月
<b>事業概要</b>	北幡地域で生産される栗の産地力強化に向け、新改植を進めるとともに、低樹高栽培の普及や労働力補完の仕組みづくり等により生産拡大を図る。また、2次加工施設の整備などを行い、安定的な加工商品の生産と需要の拡大を図り、中山間地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
JA 栗集荷量 (西土佐・大正・十和)	26t (R元)	29.0t	29.5t	50t

## これまでの主な動き

### <これまでの取り組みの内容>

#### ◆生産量の増大

- ・新たな担い手となる「しまんと新一次産業(株)」が設立され下津井地区で栽培を開始 (H24)
- ・苗木の補助などにより、新改植を推進 (H22～)
- ・栗技術チーム会での低樹高化に向けたせん定技術の普及、特選栗認定の推進 (H24～)

#### ◆施設機械整備

- ・産地パワーアップ事業により、しまんと新一次産業(株)ペースト工場が完成 (H29.9月)
- ・高知県次世代型ハウス・農業クラスター促進事業によりしまんと新一次産業(株)に高品質ペースト機械導入 (R元)
- ・(株)四万十ドラマ新規2次加工施設起工 (R2)
- ・食品加工施設緊急整備事業費補助金を活用したおちゃくりカフェの新しい生活様式に対応した商品開発のための機器整備 (R2)
- ・新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別事業費補助金を活用した新工場の菓子製造機器の整備 (R2)
- ・県版 HACCP 第3ステージ認証取得 (R3)

#### ◆ブランド化

- ・新商品開発、イベント開催、販路開拓 (H22～)
- ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用したカフェを併設した加工場「おちゃくりカフェ」の整備(H25)
- ・(株)四万十ドラマ直営店「とわ」オープン (H30.8月)

### <主な成果>

#### ◆しまんと新一次産業(株)ペースト加工量

H28 : 0t → H30 : 8.9t → R元 : 7.7t  
→ R2 : 8.1t → R3 : 9.3t

#### ◆おちゃくりカフェ雇用

H27 : 8人 → R元 : 9人 → R2 : 11人  
→ R3 : 15人

#### ◆特選栗認定経営体

H27:0 → R元 : 29 → R2 : 23 → R3 : 13

#### ◆せん定隊作業本数

R元 : 539本 (7戸) → R2 : 663本 (6戸)  
→ R3 : 365本 (4戸) ※R4年12月現在

#### ◆新商品開発

8品

### <課題>

- ・高齢化等による耕作放棄地の増大
- ・2次加工施設整備による安定生産
- ・新商品の開発とブランド化による販路の拡大

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産量の増大	生産拡大による産地強化				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十の栗再生プロジェクト推進協議会： 新改植の推進、せん定指導體制の整備、せん定技術の普及、樹園地マップ作成 労力補完の仕組みづくりの検討（茶園作業者の活用等）</li> <li>●県（地域本部等）： 剪定講習会、目慣らし会開催支援</li> </ul>				
◆施設機械整備	2次加工施設整備	新加工施設による安定稼働と商品開発			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)四万十ドラマ： 新加工施設の建設</li> <li>●県（地域本部等）： 各種補助事業の活用提案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)四万十ドラマ： 新加工場での商品増産、新商品の開発</li> <li>●県（地域本部等）： 新商品開発のためのアドバイザー活用提案</li> </ul>			
	既存加工施設の安定稼働（1.5次：ペースト加工など、2次：最終商品への加工）				
<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)四万十ドラマ、しまんと新一次産業(株)： 製造方法の改善、高品質ペースト機器によるペースト加工の品質向上</li> <li>●県（地域本部等）： 品質向上のためのアドバイザーの活用提案</li> </ul>					
◆ブランド化	ブランド化による商品カアツプ				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十の栗再生プロジェクト推進協議会、(株)無手無冠、清流栗庵： 商標等の検討、商品開発、販路拡大</li> <li>●県（地域本部等）： 商品開発等のためのアドバイザーの活用提案</li> </ul>				

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No. 6 四万十のうまい栗・芋クラスタープロジェクト(仮)</b> (四万十町)
<b>実施主体</b>	◎四万十の栗再生プロジェクト推進協議会、(株)無手無冠、清流栗庵 (株)四万十ドラマ、しまんと新一次産業(株)
<b>APへの 位置づけ</b>	H22.4月
<b>事業概要</b>	大正・十和地域の栗と芋の加工に携わる事業者が主体となって、JAや地域内の生産者、さらには四万十流域の生産者とも連携し、農業者所得の向上と6次産業化の仕組みを作り、中山間地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
JA 栗集荷量 (西土佐・大正・十和)	26t (R元)	29.0t	29.5t	26.6t	50t
人参芋生産量 (四万十の芋プロジェクト協議会)	24t (R3)	=	24t	44t	40t
栗ペースト出荷量 (しまんと新一次産業(株))	9.3t (R3)	=	9.3t (R3)		10t
(株)四万十ドラマ加工品販売額	2.42億円 (R3)	=	2.42億円 (R3)		3.0億円

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆生産量の増大

- ・苗木の補助などにより、栗の新改植を推進 (H22~)
- ・担い手として「しまんと新一次産業(株)」設立 (H24)
- ・栗技術チーム会での低樹高化に向けたせん定技術の普及、特選栗認定の推進 (H24~)
- ・人参芋の栽培を推進する「四万十の芋プロジェクト協議会」が設立。(R3)

◆施設機械整備

- ・産地パワーアップ事業により、しまんと新一次産業(株)ペースト工場が完成 (H29)
- ・次世代型ハウス・農業クラスター促進事業によりしまんと新一次産業(株)に高品質ペースト機械導入 (R元)
- ・新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別事業費補助金を活用した(株)四万十ドラマ新工場(地栗工場)の施設整備 (R3)

◆ブランド化

- ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用したカフェを併設した加工場「おちゃくりカフェ」の整備(H25)
- ・(株)四万十ドラマ直営店「とわ」オープン (H30)
- ・県版 HACCP 第3ステージ認証取得(地栗工場) (R3)

<主な成果>

- ◆(株)四万十ドラマ雇用者数  
H27: 8人 → R元: 9人 → R2: 11人  
→ R3: 15人
- ◆新商品開発  
R3: 8品

<課題>

- ・高齢化等による耕作放棄地の増大
- ・2次加工施設整備による安定生産
- ・新商品の開発とブランド化による販路の拡大

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産量の増大	<b>栗の生産拡大</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十の栗再生プロジェクト推進協議会： 新改植の推進、せん定指導體制の整備、せん定技術の普及、樹園地マップ作成</li> <li>●県（高南農業改良普及所等）： 剪定講習会、目慣らし会開催支援</li> </ul>				
◆施設機械整備	<b>芋の生産拡大</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)四万十ドラマ（四万十の芋プロジェクト協議会）： 栽培技術の高位平準化、研修会等の開催</li> <li>●県（高南農業改良普及所等）： 病害虫対策の周知、有機農業に関する情報提供</li> </ul>				
◆施設機械整備	<b>2次加工施設整備</b>				
	<b>新加工施設による安定稼働と商品開発</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)四万十ドラマ： 新加工施設の建設</li> <li>●県（地域本部等）： 各種補助事業の活用提案</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)四万十ドラマ： 新加工場での商品増産、新商品の開発</li> <li>●県（地域本部等）： 新商品開発のためのアドバイザー活用提案</li> </ul>		
◆施設機械整備	<b>ペースト加工施設の安定稼働（1.5次：ペースト加工）</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●しまんと新一次産業(株)： 製造方法の改善、高品質ペースト機器によるペースト加工の品質向上</li> <li>●県（地域本部等）： 品質向上のためのアドバイザーの活用提案</li> </ul>				
◆ブランド化	<b>ブランド化による商品カアツ</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)四万十ドラマ： 商標等の検討、商品開発、販路拡大</li> <li>●県（地域本部等）： 商品開発等のためのアドバイザーの活用提案</li> </ul>				

# 統合項目（案）

統合前①

## 高幡地域アクションプラン

分野

観光

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.32 中土佐町の地域資源を活用した体験型・滞在型観光の推進</b> (中土佐町)
<b>実施主体</b>	中土佐町
<b>APへの 位置づけ</b>	H21.4月
<b>事業概要</b>	観光拠点施設を設置し、中土佐町の観光情報発信及び観光客の誘致を行うとともに、重要文化的景観を生かした久礼のまち歩きや漁業体験などの体験型観光メニューの充実を図り、中土佐町における交流人口の拡大を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 体験受入数	3,523人 (H30)	1,919人		4,100人
(2) 宿泊者数	13,415人 (H30)	9,206人		14,000人

### これまでの主な動き

<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆<b>体験プログラムの造成・磨き上げ及び人材育成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントと連携した体験プログラムのPR及び誘客（海鮮祭り、かつお祭り、大野見しんまいフェスタほか）</li> <li>・久礼のまち歩きガイドの養成（H26～）</li> <li>・大正町市場10分ガイドの取り組み（H30～）</li> </ul> </li> <li>◆<b>誘客に向けた情報発信</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントにおける情報発信</li> <li>・道の駅なかとさにおける観光情報の発信（H29～）</li> <li>・海外旅行サイトにおける情報発信（R3～）</li> </ul> </li> <li>◆<b>観光拠点施設の運営</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光拠点等整備事業費補助金の活用による観光拠点施設「ぜよびあ」整備（H28オープン）</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆<b>体験受入数</b> H27：3,306人 → H30：3,523人 → R2：1,919人</li> <li>◆<b>宿泊者数</b> H27：11,084人 → H30：13,415人 → R2：9,206人</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かつお祭りの開催方法についての検討</li> <li>・町を周遊できる仕組みづくり</li> <li>・情報発信の方法検討（紙媒体⇒電子媒体）</li> </ul>
--	--



第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆体験プログラムの造成・磨き上げ及び人材育成	<p>地域資源を活用した体験プログラムの造成、磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●中土佐町： 漁業体験、釣りイカダ等の体験プログラムの磨き上げ、まち歩きで提供できるサービスの充実・まち歩きガイドの養成、人材育成、新たな体験プログラムの造成検討</li> <li>●県(地域本部)： 新たな体験プログラム造成に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、観光に関する情報提供等</li> </ul>				
◆誘客に向けた情報発信	<p>SNS、メディア等による情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●中土佐町： SNSやメディア等、媒体の特性に応じた情報発信、町内の観光関係機関と連携した効果的な情報発信、関係機関と連携した各種イベントの開催方法の検討と効果的なイベント等の開催</li> <li>●県(地域本部)： 効果的な情報発信に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、県を通じた情報発信等</li> </ul>				
◆観光拠点施設の運営	<p>観光拠点施設の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●中土佐町： 多様な利用ニーズを取り込み、人と情報とが行き交う活気あふれる観光拠点施設の運営</li> <li>●県(地域本部等)： 観光に関する情報提供等</li> </ul>				

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.33 「黒潮本陣」を核とした滞在型観光推進</b> (中土佐町)
<b>実施主体</b>	◎中土佐町、(株)中土佐町地域振興公社
<b>APへの 位置づけ</b>	R2.4月
<b>事業概要</b>	中土佐町の迎賓館として20年以上運営してきた黒潮本陣について、老朽化した施設を大規模リニューアルするとともに、滞在型観光施設としてのブランド化を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 黒潮本陣宿泊者数	10,394人 (H30)	6,998人		11,000人
(2) 黒潮工房入込数	18,652人 (H30)	14,406人		20,000人

これまでの主な動き

<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆施設リニューアル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・黒潮本陣本館改修計画調査の実施 (R2)</li> <li>・黒潮本陣コテージ改修、コテージ遊歩道整備 (R3)</li> <li>・</li> </ul> <p>◆誘客促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「鯉乃國」情報発信事業 (H10～H21) 黒潮工房がメインとなり、県外各地のイベントでの鯉のタタキ実演販売による町と黒潮本陣への誘客促進活動の実施</li> <li>・黒潮本陣ホームページリニューアル (H27～R2) 多言語(英語)を加えたホームページの再構築、インバウンド観光を含めた誘客促進、SNSやブログを活用した情報発信</li> <li>・道の駅なかとさ、大正町市場商店街など関連施設との連携強化に向けた協議、コロナ対策事業協議 (R2～R3)</li> <li>・季節感のあるメニュー(かつお、ミトマト等)の提供 (R2～R3)</li> <li>・本陣25周年記念イベント実施 (R3)</li> </ul>	<p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <p>◆黒潮工房売上額 H30:3,200万円 → R2:2,787万円</p> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時代ニーズに合った施設リニューアル及びサービスの提供</li> <li>・効果的な情報発信</li> </ul>
---	---

## 第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆施設リニューアル	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="width: 20%;"></div> <div style="width: 30%; text-align: center;"> <p style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">改修内容の検討</p> </div> <div style="width: 30%; text-align: center;"> <p style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">設計・改修工事</p> </div> <div style="width: 20%;"></div> </div>				
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%; border: 1px solid #0070c0; border-radius: 20px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>●中土佐町、(株)中土佐町地域振興公社： 黒潮本陣本館の改修調査と改修費用算出（概算）、改修計画作成、顧客ニーズについての検討と整理</li> <li>●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供、滞在型観光推進に向けたアドバイザー制度及び産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業含む）の活用検討</li> </ul> </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid #0070c0; border-radius: 20px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>●中土佐町、(株)中土佐町地域振興公社： 黒潮本陣本館の施設改修</li> <li>●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供</li> </ul> </div> </div>				
◆誘客促進	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="width: 20%;"></div> <div style="width: 80%; text-align: center;"> <p style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">関連施設との連携の強化</p> </div> <div style="width: 20%;"></div> </div>				
	<div style="border: 1px solid #0070c0; border-radius: 20px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>●中土佐町、(株)中土佐町地域振興公社： 「道の駅なかとさ」や「大正町市場商店街」などと連携した誘客の取り組み</li> </ul> </div>				
	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="width: 20%;"></div> <div style="width: 80%; text-align: center;"> <p style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">情報発信の強化（メディア、SNSを活用した顧客の獲得、旅行会社への売り込み）</p> </div> <div style="width: 20%;"></div> </div>				
	<div style="border: 1px solid #0070c0; border-radius: 20px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>●中土佐町、(株)中土佐町地域振興公社： 黒潮本陣ホームページの見直し、効果的な情報発信方法の検討、接客や営業活動等の充実に向けた人材の確保・育成</li> <li>●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供、効果的な情報発信に向けたアドバイザー制度及び産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業含む）の活用検討</li> </ul> </div>				

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.32 中土佐町の地域資源を活用した体験型・滞在型観光の推進</b> (中土佐町)
<b>実施主体</b>	中土佐町、(株)中土佐町地域振興公社
<b>APへの 位置づけ</b>	H21.4月
<b>事業概要</b>	観光拠点施設を設置し、中土佐町の観光情報発信及び観光客の誘致を行うとともに、重要文化的景観を生かした久礼のまち歩きや漁業体験などの体験型観光メニューの充実を図り、中土佐町における交流人口の拡大を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 体験受入数	3,523人 (H30)	1,919人	2,240人		4,100人
(2) 宿泊者数	13,415人 (H30)	9,206人	10,257人		14,000人
(3) 黒潮工房入込数	18,652人 (H30)	14,406人	15,342人		20,000人

これまでの主な動き

<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆<b>体験プログラムの造成・磨き上げ及び人材育成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントと連携した体験プログラムのPR及び誘客 (海鮮祭り、かつお祭り、大野見しんまいフェスタほか)</li> <li>・久礼のまち歩きガイドの養成 (H26～)</li> <li>・大正町市場 10分ガイドの取り組み (H30～)</li> </ul> </li> <li>◆<b>誘客に向けた情報発信</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントにおける情報発信</li> <li>・道の駅なかとさにおける観光情報の発信 (H29～)</li> </ul> </li> <li>◆<b>観光拠点施設の運営</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光拠点等整備事業費補助金の活用による観光拠点施設「ぜよびあ」整備 (H28 オープン)</li> </ul> </li> <li>◆<b>施設リニューアル・誘客促進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・黒潮本陣コテージ改修、コテージ遊歩道整備</li> <li>・黒潮本陣本館改修</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆体験受入数 H27: 3,306人 → H30: 3,523人 → R3: 2,240人</li> <li>◆宿泊者数 H27: 11,084人 → H30: 13,415人 → R3: 10,257人</li> <li>◆黒潮工房売上額 H30: 3,200万円 → R3: 2,787万円</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かつお祭りの開催方法についての検討</li> <li>・町を周遊できる仕組みづくり</li> <li>・感染対策と賑わいの創出を両立させる</li> <li>・情報発信の方法検討 (紙媒体⇒電子媒体)</li> <li>・情報発信の有効な効果検証が確立されていない</li> </ul>
---	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆体験プログラムの造成・磨き上げ及び人材育成	<p>地域資源を活用した体験プログラムの造成、磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●中土佐町：               <ul style="list-style-type: none"> <li>漁業体験、釣りイカダ等の体験プログラムの磨き上げ、まち歩きで提供できるサービスの充実・まち歩きガイドの養成、人材育成、新たな体験プログラムの造成検討</li> </ul> </li> <li>●県(地域本部)：               <ul style="list-style-type: none"> <li>新たな体験プログラム造成に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、観光に関する情報提供等</li> </ul> </li> </ul>				
◆誘客に向けた情報発信	<p>SNS、メディア等による情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●中土佐町、(株)中土佐町地域振興公社：               <ul style="list-style-type: none"> <li>SNSやメディア等、媒体の特性に応じた情報発信、町内の観光関係機関と連携した効果的な情報発信、関係機関と連携した各種イベントの開催方法の検討と効果的なイベント等の開催</li> </ul> </li> <li>●県(地域本部)：               <ul style="list-style-type: none"> <li>効果的な情報発信に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、県を通じた情報発信等</li> </ul> </li> </ul>				
◆観光拠点施設の運営	<p>観光拠点施設の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●中土佐町：               <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な利用ニーズを取り込み、人と情報とが行き交う活気あふれる観光拠点施設の運営</li> </ul> </li> <li>●県(地域本部等)：               <ul style="list-style-type: none"> <li>観光に関する情報提供等</li> </ul> </li> </ul>				
◆観光拠点を中心とした周遊観光の促進	<p>観光拠点を中心とした周遊観光の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●中土佐町、(株)中土佐町地域振興公社：               <ul style="list-style-type: none"> <li>黒潮本陣リニューアルに伴う休業期間中に誘客促進策を立案、リニューアル後実行 宿泊施設の魅力向上、周遊プランの造成</li> </ul> </li> <li>●県(地域本部等)：               <ul style="list-style-type: none"> <li>観光に関する情報提供等</li> </ul> </li> </ul>				

修正項目 (案)

修正前

高幡地域アクションプラン		分野	農業
AP名 (実施地域)	No.9 四万十次世代ハウス団地におけるトマト栽培の経営強化クラスタープロジェクト (四万十町)		
実施主体	◎四万十とまと(株)、(有)四万十みはら菜園、(株)ベストグロウ、(株)四万十あおぞらファーム、山本商店、民間事業者等		
APへの位置づけ	R2.4月		
事業概要	次世代施設園芸団地で栽培されているトマトの病虫害防除対策の確立により生産を安定させるとともに、輸出の検討等、新たな販路の開拓を行い、次世代団地の経営強化を図る。		

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
売上高※	5.8億円 (R元)	5.96億円	5.26億円	6.5億円

※前年8月～当年7月

これまでの主な動き	
<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆生産の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産開始 (H28)</li> <li>・病害防除に関する対策検討会 (R元:4回、R2:1回)</li> <li>・幹部社員に対する病虫害に関する研修会の開催 (H28:6回、H29:2回、H30:2回、R元:4回)</li> <li>・病害発生状況等調査 (H30:9回、R元:18回、R2:9回)</li> <li>・養液分析の実施 (H28～1回/月)</li> <li>・あおぞらファーム育苗施設 (7.8a) の整備 (H30)</li> <li>・次世代団地雇用対策 PT 会を結成 (H26)</li> <li>・雇用対策を検討 (H26:1回、H27:5回、H28:2回)</li> </ul> <p>◆低コスト省力化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有機物処理加工施設の設置 (R元)</li> </ul> <p>◆規格外品トマトを活用した加工品の販売</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加工品 (トマトカレー、ピューレ) の開発 (H28)</li> <li>・加工品販売開始 (H28)</li> </ul>	<p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <p>◆雇用の創出</p> <p>H28:0人 → R元:77人 → R2:73人 → R3:55人(雇用の定着により、ごく短期の雇用による人の入れ替わりが減ったため)</p> <p>◆トマト青果販売数量 (3社合計 四万十とまと(株)、(有)四万十みはら菜園、(株)ベストグロウ)</p> <p>H29:1,435t → H30:1,610t → R元:1,744t → R2:1,645t → R3:1,371t</p> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホモブシス茎枯れ病対策の確立</li> <li>・病虫害対策の徹底</li> </ul>

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産の拡大	ホモプシス茎枯れ病の防除対策の確立			防除対策の実践	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十とまと(株)、(有)四万十みはら菜園、(株)ベストグロウ：病害発生調査、作業の改善</li> <li>●県（高南農業改良普及所）：病害発生調査、防除法の確立</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十とまと(株)、(有)四万十みはら菜園、(株)ベストグロウ：従業員への改善作業の徹底</li> <li>●県（高南農業改良普及所）：防除対策講習会の開催</li> </ul>	
	適正な栽培管理による草勢維持				
<ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十とまと(株)、(有)四万十みはら菜園、(株)ベストグロウ：温度、湿度、かん水等栽培環境制御による適正管理</li> <li>●県（高南農業改良普及所）：養液分析（1回/月）の実施、栽培管理への助言</li> </ul>					
良質苗の供給（四万十あおぞらファーム）					
<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)四万十あおぞらファーム：病害虫防除の徹底</li> </ul>					
◆低コスト省力化の推進	省力化技術の検討			省力化技術の実践	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十とまと(株)、(有)四万十みはら菜園、(株)ベストグロウ：スマート農機の導入、利用</li> <li>●県（高南農業改良普及所）：スマート機器（自動運搬機、自動受粉機、環境制御器他）の省力化能力等調査</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十とまと(株)、(有)四万十みはら菜園、(株)ベストグロウ：スマート機器の有効利用</li> </ul>	
省エネルギー化の推進					
<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)暁産業、山本商店、四万十町森林組合：おが粉燃料の安定供給</li> <li>●四万十町、県（農業イノベーション推進課、須崎林業事務所、地域本部）：「おが粉製造施設」の有効活用の検討</li> </ul>					
◆販路開拓	加工品の販売先の開拓				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十とまと(株)：商談会やイベントへの出展による販路開拓、海外への販路開拓に関する調査の実施等</li> <li>●四万十町、県（地産地消外商課、地域本部）：商談会等情報提供、海外販路開拓への支援</li> </ul>				

修正後

高幡地域アクションプラン

分野

農業

AP名 (実施地域)	No.9 四万十次世代ハウス団地におけるトマト等栽培の経営強化クラスタープロジェクト (四万十町)
実施主体	◎四万十とまと(株)、(有)四万十みはら菜園、(株)ベストグロウ、(株)四万十あおぞらファーム、山本商店、民間事業者等
APへの位置づけ	R2.4月
事業概要	次世代施設園芸団地で栽培されているトマト及びパプリカの病虫害防除対策の確立により生産を安定させるとともに、輸出の検討等、新たな販路の開拓を行い、次世代団地の経営強化を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
売上高※	5.8億円 (R元)	5.96億円	5.26億円	5.08億円	6.5億円

※前年8月～当年7月

これまでの主な動き

これまでの取り組みの内容	主な成果
<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆生産の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産開始 (H28)</li> <li>・病害防除に関する対策検討会 (R元:4回、R2:1回)</li> <li>・幹部社員に対する病害虫に関する研修会の開催 (H28:6回、H29:2回、H30:2回、R元:4回)</li> <li>・病害発生状況等調査 (H30:9回、R元:18回、R2:9回)</li> <li>・養液分析の実施 (H28～1回/月)</li> <li>・あおぞらファーム育苗施設 (7.8a) の整備 (H30)</li> <li>・次世代団地雇用対策PT会を結成 (H26)</li> <li>・雇用対策を検討 (H26:1回、H27:5回、H28:2回)</li> <li>・パプリカの導入 (R4.8～)</li> </ul> <p>◆低コスト省力化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有機物処理加工施設の設置 (R元)</li> </ul> <p>◆規格外品トマトを活用した加工品の販売</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加工品 (トマトカレー、ピューレ) の開発 (H28)</li> <li>・加工品販売開始 (H28)</li> </ul>	<p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <p>◆雇用の創出</p> <p>H28:0人 → R元:77人 → R2:73人 → R3:55人(雇用の定着により、ごく短期の雇用による人の入れ替わりが減ったため)</p> <p>◆トマト青果販売数量 (3社合計 四万十とまと(株)、(有)四万十みはら菜園、(株)ベストグロウ)</p> <p>H29:1,435t → H30:1,610t → R元:1,744t → R2:1,645t → R3:1,371t</p> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホモプシス茎枯れ病対策の確立</li> <li>・病虫害対策の徹底</li> </ul>



第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産の拡大	<b>ホモブシス茎枯れ病の防除対策の確立</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十とまと(株)、(有)四万十みはら菜園、(株)ベストグロウ：病害発生調査、作業の改善</li> <li>●県（高南農業改良普及所）：病害発生調査、防除法の確立</li> </ul>			<b>防除対策の実践</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十とまと(株)、(有)四万十みはら菜園、(株)ベストグロウ：従業員への改善作業の徹底</li> <li>●県（高南農業改良普及所）：防除対策講習会の開催</li> </ul>	
	<b>適正な栽培管理による草勢維持</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十とまと(株)、(有)四万十みはら菜園、(株)ベストグロウ：温度、湿度、かん水等栽培環境制御による適正管理</li> <li>●県（高南農業改良普及所）：養液分析（1回/月）の実施、栽培管理への助言</li> </ul>				
	<b>良質苗の供給（四万十あおぞらファーム）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)四万十あおぞらファーム：病害虫防除の徹底</li> </ul>				
◆低コスト省力化の推進	<b>省力化技術の検討</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十とまと(株)、(有)四万十みはら菜園、(株)ベストグロウ：スマート農機の導入、利用</li> <li>●県（高南農業改良普及所）：スマート機器（自動運搬機、自動受粉機、環境制御器他）の省力化能力等調査</li> </ul>			<b>省力化技術の実践</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十とまと(株)、(有)四万十みはら菜園、(株)ベストグロウ：スマート機器の有効利用</li> </ul>	
	<b>省エネルギー化の推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)晩産業、山本商店、四万十町森林組合：おが粉燃料の安定供給</li> <li>●四万十町、県（農業イノベーション推進課、須崎林業事務所、地域本部）：「おが粉製造施設」の有効活用の検討</li> </ul>				
◆販路開拓	<b>加工品の販売先の開拓</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十とまと(株)：商談会やイベントへの出展による販路開拓、海外への販路開拓に関する調査の実施等</li> <li>●四万十町、県（地産地消外商課、地域本部）：商談会等情報提供、海外販路開拓への支援</li> </ul>			<b>青果の販売先の開拓</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十とまと(株)：商談会やイベントへの出展等による国内外の販路開拓</li> <li>●四万十町、県（地産地消外商課、農産物マーケティング戦略課、地域本部）：商談会等情報提供、海外販路開拓への支援</li> </ul>	

修正前

高幡地域アクションプラン

分野

観光

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.30 須崎市海のまちプロジェクト</b> (須崎市)
<b>実施主体</b>	◎須崎市、須崎市海のまちプロジェクト推進協議会
<b>APへの 位置づけ</b>	R3.9月
<b>事業概要</b>	須崎駅を含む中心市街地を「海のまち」と定義し、コアゾーンとして整備・活用することにより、地域活性化の拠点づくりを行うとともに、「海のまち」を起点にさまざまな事業と連携することで須崎市全域から奥四万十エリア全域まで波及効果を促す仕組みづくりを行う。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
主要施設の来場者数※	101,152人 (R2)	同左		146,400人
エリア内新規出店数	6件 (R2)	同左		7件 (R3~5 累計)

※まちかどギャラリー、須崎駅、海のまちプロジェクト関連イベントの来場者数

これまでの主な動き

<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆海のまちプロジェクトの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・須崎市及び高知信用金庫内にプロジェクトチームの設置 (R3.4)</li> <li>・各チームによる実地調査やアニメーション等有識者による現地視察の実施</li> <li>・須崎市海のまちプロジェクト全体会議の開催 (2回)</li> </ul> <p>◆海のまち創り・リノベーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エリア内リノベーション案の検討</li> <li>・エントランスにあたる駅前周辺エリアのリノベーション</li> </ul> <p>◆海のまちの魅力の向上・再発見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地活性化協議会による、須崎市商店街等振興計画策定 (R3.4)</li> <li>・海のまちマルシェイベントの開催 (R3.12~R4.1)</li> <li>・地域事業者と連携した海のまち須崎おもてなしキャンペーンの実施 (R3.12~R4.1)</li> <li>・起業等に向けた保証料補助制度の創設 (R3.12)</li> </ul> <p>◆エリア外との連携促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浦ノ内マリンパークのロゴの作成</li> <li>・ふるさと納税寄付金制度の活用</li> </ul>	<p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PR 動画の制作及び新聞広告による PR の実施</li> <li>・各関係機関による海のまちプロジェクト推進協議会の立ち上げ</li> <li>・JR 四国と連携・協力し、JR 須崎駅を「JR 海のまち須崎駅」としてリノベーション</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光における面での取組の不足</li> <li>・拠点となる施設の選定</li> <li>・空き家空き店舗の増加</li> <li>・継続して人を呼び込む仕掛け作り</li> </ul>
--	---

## 第4期計画における工程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆海のまち創り・リノベーション	<p><b>海のまちのブランディング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市：魅力ある海のまちのストーリーづくり、情報発信等の検討・実施</li> <li>●県（地域本部等）：必要に応じたアドバイザー等制度活用を紹介提案</li> </ul> <p><b>コアゾーンにおけるエリアの策定及びリノベーション</b></p> <p>コアゾーンの拠点となる施設の検討 → 拠点施設等整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市：各種エリアの策定とイメージ等の検討及びリノベーションの実施 拠点となる施設の検討、市民参加型での整備に向けた検討</li> <li>●県（地域本部等）：各種支援制度の情報提供等</li> </ul>				
◆海のまちの魅力の向上・再発見	<p><b>既存の体験や名物等のブラッシュアップ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市：地域のお祭りの継承・復活及び体験型へのブラッシュアップ 鍋焼きラーメン等既存商品のブラッシュアップの検討</li> <li>●県（地域本部等）：支援制度や商談会等の情報提供</li> </ul> <p><b>緑日商店街企画の検討・実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市：中心市街地活性化協議会との連携の検討及び調整 イメージ戦略を含めた商品の魅力化・販売支援の検討</li> <li>●県（地域本部等）：支援制度や商談会等の情報提供</li> </ul> <p><b>起業支援制度の検討・実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市：起業支援制度のブラッシュアップ</li> <li>●県（地域本部等）：関係機関等の支援制度の情報提供等</li> </ul>				
◆エリア外との連携促進	<p><b>海のまちの仲間づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市：ふるさと納税制度を活用した企画等の検討、旅行企画組成の検討</li> <li>●県（地域本部等）：観光創生塾等支援制度等の情報提供</li> </ul> <p><b>須崎市内への波及や周辺エリア等との連携の検討、実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市：浦ノ内マリパーク、屋外体験施設や魚市場等の市内他エリアとの連携の検討、市外奥四万十エリアとの連携の検討</li> <li>●県（地域本部等）：関係機関との調整等の支援</li> </ul>				

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.30 須崎市海のまちプロジェクト</b> (須崎市)
<b>実施主体</b>	◎須崎市、須崎市海のまちプロジェクト推進協議会
<b>APへの 位置づけ</b>	R3.9月
<b>事業概要</b>	須崎駅を含む中心市街地を「海のまち」と定義し、コアゾーンとして整備・活用することにより、地域活性化の拠点づくりを行うとともに、「海のまち」を起点にさまざまな事業と連携することで須崎市全域から奥四万十エリア全域まで波及効果を促す仕組みづくりを行う。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
主要施設の来場者数 ※	5,522人 (R2)	同左	12,816人		50,000人
エリア内新規出店数	6件 (R2)	同左	3件		7件 (R3~5累計)

※まちかどギャラリー、須崎大漁堂、海のまちプロジェクト関連イベントの来場者数 等

これまでの主な動き

<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆海のまちプロジェクトの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・須崎市及び高知信用金庫内にプロジェクトチームの設置 (R3.4)</li> <li>・各チームによる実地調査やアニメーション等有識者による現地視察の実施</li> <li>・関係機関による須崎市海のまちプロジェクト全体会議の開催 (年2回)</li> </ul> <p>◆海のまち創り・リノベーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エリア内リノベーション案の検討</li> <li>・エントランスエリアリノベーションの実施 (JR 海のまち須崎駅)</li> <li>・縁日商店街エリアリノベーションの実施 (須崎大漁堂)</li> <li>・縁日商店街エリアリノベーションの検討 (須崎サカナ本舗)</li> </ul> <p>◆海のまちの魅力の向上・再発見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地活性化協議会による、須崎市商店街等振興計画策定 (R3.4)</li> <li>・他事業と連携した「海のまちマルシェ」の開催 (R3: 1回、R4: 3回)</li> <li>・起業等に向けた保証料補助制度の創設 (R3.12)</li> </ul>	<p>◆エリア外との連携促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浦ノ内マリンパークのロゴの作成</li> <li>・ふるさと納税寄付金制度の活用</li> <li>・高知県アニメクリエイター聖地プロジェクトとの連携</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PR 動画の制作及び新聞広告による PR の実施</li> <li>・各関係機関による海のまちプロジェクト推進協議会の立ち上げ</li> <li>・JR 四国と連携・協力し、JR 須崎駅を「JR 海のまち須崎駅」としてリノベーション</li> <li>・市内外の事業と連携し、機会あるごとにマルシェイベントを同時開催</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光における面での取組の不足</li> <li>・拠点となる施設の選定</li> <li>・空き家空き店舗の増加</li> <li>・継続して人を呼び込む仕掛け作り</li> </ul>
---	---

第4期計画における工程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆海のまち創り・リノベーション	<p>海のまちのブランディング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市：魅力ある海のまちのストーリーづくり、情報発信等の検討・実施</li> <li>●県（地域本部等）：必要に応じたアドバイザー等制度活用を紹介提案</li> </ul>				
	<p>コアゾーンにおけるエリアの策定及びリノベーション</p> <p>コアゾーンの拠点となる施設の検討</p> <p>拠点施設等整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市：各種エリアの策定とイメージ等の検討及びリノベーションの実施 拠点となる施設の検討、市民参加型での整備に向けた検討</li> <li>●県（地域本部等）：各種支援制度の情報提供等</li> </ul>				
◆海のまちの魅力の向上・再発見	<p>既存の体験や名物等のブラッシュアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市：地域のお祭りの継承・復活及び体験型へのブラッシュアップ 鍋焼きラーメン等既存商品のブラッシュアップの検討</li> <li>●県（地域本部等）：支援制度や商談会等の情報提供</li> </ul>				
	<p>緑日商店街企画の検討・実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市：中心市街地活性化協議会との連携の検討及び調整 イメージ戦略を含めた商品の魅力化・販売支援の検討</li> <li>●県（地域本部等）：支援制度や商談会等の情報提供</li> </ul>				
	<p>起業支援制度の検討・実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市：起業支援制度のブラッシュアップ</li> <li>●県（地域本部等）：関係機関等の支援制度の情報提供等</li> </ul>				
◆エリア外との連携促進	<p>海のまちの仲間づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市：ふるさと納税制度を活用した企画等の検討、旅行企画組成の検討</li> <li>●県（地域本部等）：観光創生塾等支援制度等の情報提供</li> </ul> <p>須崎市内への波及や周辺エリア等との連携の検討、実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市：浦ノ内マリパーク、屋外体験施設や魚市場等の市内他エリアとの連携の検討、市外奥四万十エリアとの連携の検討</li> <li>●県（地域本部等）：関係機関との調整等の支援</li> </ul>				

修正前

高幡地域アクションプラン

分野

観光

AP名 (実施地域)	No.31 浦ノ内マリパークにおける交流人口の拡大による地域の活性化 (須崎市)
実施主体	◎須崎市、(一社)須崎市観光協会、NPO 法人すさきスポーツクラブ、指定管理者、その他関係事業者等
APへの位置づけ	R4.4月
事業概要	須崎市海洋スポーツパーク構想による海洋スポーツの振興と海洋レジャー等の体験型観光を推進するとともに、野外体験施設との連携による交流人口の拡大を図り地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
交流人口	8,201人 (R2)	同左		33,000人

これまでの主な動き

<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆<b>海洋スポーツの振興</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すさきオープンウォータースイミングへの国内外有名選手の招へい (H29～)</li> <li>・合宿誘致事業の実施 (H29～)</li> <li>・ホストタウン (チェコ等) 登録 (H29)</li> <li>・チェコ、ベルギー、ロシアナショナルチームによる合宿の実施 (H29～)</li> <li>・東京五輪カヌー・ボートチェコ代表の事前合宿 (R3)</li> <li>・日本選手権 OWS 競技大会の開催 (R3)</li> </ul> <p>◆<b>魅力ある体験メニューの磨き上げ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海上アスレチック等の体験メニュー導入に向けた備品整備 (H29、R1)</li> <li>・海洋スポーツ・海洋レジャーの振興に向けた人員の配置 (H30～)</li> </ul> <p>◆<b>教育旅行の誘致に向けた体制の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他市町村を含めた受入世帯の拡充に向けた研修会の実施 (H30)</li> <li>・(一社)須崎市観光協会の設立 (R2)</li> </ul> <p>◆<b>地域の活性化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内業者と連携した割引サービスの実施 (H30)</li> <li>・地域内にある住民組織との連携</li> </ul>	<p>◆<b>施設の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方創生拠点整備交付金及び高知県スポーツ推進交付金を活用した施設整備 シーパーク大島、カヌー1000mコースの整備 (H29) 坂内カヌー場管理棟トレーニング棟の整備 (H30) カヌー500mコースの整備 (R1) 体験学習施設の整備 (R2)</li> <li>・高知県観光施設等緊急整備事業費補助金を活用した野外体験施設整備や坂内、鳴無神社周辺の受入環境整備 (R3)</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <p>◆<b>交流人口の増化</b> H28 : 17,060人 → R元 : 23,433人</p> <p>◆<b>スポーツ大会・スポーツ合宿の受入人数</b> H28 : 1,314人 → R元 : 3,144人</p> <p>◆<b>個人向け体験プログラムや教育旅行等団体向け体験プログラムにおける受入人数</b> H28 : 4,041人 → R元 : 7,532人</p> <p>◆<b>教育旅行等団体向け体験プログラムの造成</b> H21 : 2個 → R元 : 29個</p> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育旅行等向け体験プログラムの磨き上げや営業・ 프로모ーション活動の強化</li> <li>・一般向け体験プログラムの利用者増加に向けた広報活動の強化</li> </ul>
---	---

第4期計画における工程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆海洋スポーツの振興	2020 オリンピック・パラリンピックの受入		合宿等のプロモーション・定着に向けた活動		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市：オリンピック直前合宿の受入やオリンピック開催を契機とした市内のスポーツへの機運の向上へ向けた取り組み及びオリンピック終了後の取り組みの検討</li> <li>●県（地域本部等）：関係者間の調整等の支援</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市：企業・大学等へのPR活動、PRパンフレットの作成、合宿補助の検討・実施、ウェブサイトの作成</li> <li>●県（地域本部等）：広報等の支援、アドバイザー等制度の活用提案</li> </ul>		
	全国大会等の海洋スポーツ大会誘致				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市：競技連盟へのセールス、開催地への視察、視察の受入れ、受入体制の充実</li> <li>●県（地域本部等）：関係者等への調整橋渡し支援</li> </ul>				
◆体験型観光の推進	新たな野外体験施設等の整備		各種体験メニューのブラッシュアップ		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市：地権者等との調整施設整備</li> <li>●県（地域本部等）：観光施設等緊急整備事業費補助金活用に関する支援、関係者との調整支援</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市、（一社）須崎市観光協会、NPO法人すさきスポーツクラブ：体験メニューの実施、スタッフの研修</li> <li>●県（地域本部等）：アドバイザーや研修メニューの活用提案、関係者等への橋渡し</li> </ul>		
	PRの強化				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市、（一社）須崎市観光協会、NPO法人すさきスポーツクラブ：ウェブサイトの充実、マスコミを通じたPR、旅行会社・宿泊施設へのセールス</li> <li>●県（地域本部等）：広報支援、関連する研修会・セミナーや活用可能な支援制度の紹介</li> </ul>				
	教育旅行等の受入体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市、（一社）須崎市観光協会：体験プログラムの造成・磨き上げ、民泊事業についての検討・研修会等の実施、研修や商談会への参加</li> <li>●県（地域本部、地域観光課等）：各種制度やセミナーの紹介、近隣市町等関係機関との連携支援</li> </ul>				
◆地域活性化に向けた連携強化	市内事業者や海のまちプロジェクト等との連携強化の検討				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市、（一社）須崎市観光協会：市内での宿泊・飲食・土産品購入に向けた取り組み、市内事業者と連携した周遊につながるメニューの提供、集落活動センターうちのうち（浦ノ地区地域自主組織）・県漁協深浦支所等近隣事業者との連携、海のまちプロジェクトとの情報共有、連携方法の検討</li> <li>●県（地域本部等）：関係機関との連携支援、連携方法の検討提案等伴走支援</li> </ul>				

AP名 (実施地域)	No.31 浦ノ内マリンパークにおける交流人口の拡大による地域の活性化 (須崎市)
実施主体	◎須崎市、(一社)須崎市観光協会、NPO 法人すさきスポーツクラブ、指定管理者、その他関係事業者等
APへの位置づけ	R4.4月
事業概要	須崎市海洋スポーツパーク構想による海洋スポーツの振興と海洋レジャー等の体験型観光を推進するとともに、野外体験施設との連携による交流人口の拡大を図り地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
交流人口	8,201人 (R2)	同左	9,578人		60,000人

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆海洋スポーツの振興

- ・すさきオープンウォータースイミングへの国内外有名選手の招へい (H29～)
- ・合宿誘致事業の実施 (H29～)
- ・東京五輪へのチェコ等ホストタウン交流やナショナルチームによる合宿およびチェコ代表の事前合宿 (H29～)
- ・日本選手権 OWS 競技大会の開催 (R3)

◆魅力ある体験メニューの磨き上げ

- ・海上アスレチック等の体験メニュー導入に向けた備品整備や人員の配置 (H29～)
- ・野外体験施設のオープンと連携した個人体験メニューのブラッシュアップ (R4)

◆教育旅行の誘致に向けた体制の整備

- ・(一社)須崎市観光協会の設立およびコロナ禍における教育旅行のトレンド変化への対応 (R2～)

◆地域の活性化

- ・市内業者と連携した割引サービスの実施 (H30)
- ・地域内にある住民組織との連携
- ・スポーツ大会を活用した市内周遊の検討 (R4)

◆施設の整備

- ・地方創生拠点整備交付金及び高知県スポーツ推進交付金を活用した施設整備  
シーパーク大島、カヌー1000mコースの整備 (H29)  
坂内カヌー場管理棟トレーニング棟の整備 (H30)  
カヌー500mコースの整備 (R1)  
体験学習施設の整備 (R2)
- ・高知県観光施設等緊急整備事業費補助金を活用した野外体験施設整備や坂内、鳴無神社周辺の受入環境整備 (R3)

<主な成果>

◆交流人口の増化

H28 : 17,060人 → R元 : 23,433人

◆スポーツ大会・スポーツ合宿の受入人数

H28 : 1,314人 → R元 : 3,144人

◆個人向け体験プログラムや教育旅行等団体向け体験プログラムにおける受入人数

H28 : 4,041人 → R元 : 7,532人

◆教育旅行等団体向け体験プログラムの造成

H21 : 2個 → R元 : 29個

<課題>

- ・教育旅行等向け体験プログラムの磨き上げや営業・ 프로모ーション活動の強化
- ・一般向け体験プログラムの利用者増加に向けた広報活動の強化



第4期計画における工程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆海洋スポーツの振興	2020 オリンピック・パラリンピックの受入		合宿等のプロモーション・定着に向けた活動		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市：オリンピック直前合宿の受入やオリンピック開催を契機とした市内のスポーツへの機運の向上へ向けた取り組み及びオリンピック終了後の取り組みの検討</li> <li>●県（地域本部等）：関係者間の調整等の支援</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市：企業・大学等へのPR活動、PRパンフレットの作成、合宿補助の検討・実施、ウェブサイトの作成</li> <li>●県（地域本部等）：広報等の支援、アドバイザー等制度の活用提案</li> </ul>		
	全国大会等の海洋スポーツ大会誘致				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市：競技連盟へのセールス、開催地への視察、視察の受入れ、受入体制の充実</li> <li>●県（地域本部等）：関係者等への調整橋渡し支援</li> </ul>				
◆体験型観光の推進	新たな野外体験施設等の整備		各種体験メニューのブラッシュアップ		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市：地権者等との調整施設整備</li> <li>●県（地域本部等）：観光施設等緊急整備事業費補助金活用に関する支援、関係者との調整支援</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市、（一社）須崎市観光協会、NPO 法人すさきスポーツクラブ：体験メニューの実施、スタッフの研修、<u>スポーツ大会と連携したツアーの検討・実施</u></li> <li>●県（地域本部等）：アドバイザーや研修メニューの活用提案、関係者等への橋渡し</li> </ul>		
	PRの強化				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市、（一社）須崎市観光協会、NPO 法人すさきスポーツクラブ：ウェブサイトの充実、マスコミを通じたPR、旅行会社・宿泊施設へのセールス</li> <li>●県（地域本部等）：広報支援、関連する研修会・セミナーや活用可能な支援制度の紹介</li> </ul>				
	教育旅行等の受入体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市、（一社）須崎市観光協会：体験プログラムの造成・磨き上げ、民泊事業についての検討・研修会等の実施、研修や商談会への参加</li> <li>●県（地域本部、地域観光課等）：各種制度やセミナーの紹介、近隣市町等関係機関との連携支援</li> </ul>				
◆地域活性化に向けた連携強化	市内事業者や海のまちプロジェクト等との連携強化の検討				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●須崎市、（一社）須崎市観光協会：市内での宿泊・飲食・土産品購入に向けた取り組み、市内事業者と連携した周遊につながるメニューの提供、集落活動センターうらのうち（浦ノ地区地域自主組織）・県漁協深浦支所等近隣事業者との連携、海のまちプロジェクトとの情報共有、連携方法の検討、<u>スポーツ大会と連携したツアーの検討・実施</u></li> <li>●県（地域本部等）：関係機関との連携支援、連携方法の検討提案等伴走支援</li> </ul>				

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.34 梶原町の体験型・滞在型観光の推進</b> (梶原町)
<b>実施主体</b>	◎ (一社) ゆすはら雲の上観光協会、梶原町商工会、梶原町、松原まろうどん会、坂本龍馬脱藩の郷 ゆすはらであいの会
<b>APへの位置づけ</b>	H21.4月
<b>事業概要</b>	「坂本龍馬脱藩の郷」としての取り組みや、まち歩きやセラピーロードをはじめとした体験型観光を継続しながら、隈研吾施設を活用した新たな取り組みを推進する。また、住民主体のおもてなし、受入態勢や基盤の一層の充実を図り、環境・いやしのまち梶原の取り組みと併せて旅行会社、企業、大学などへの誘致活動のほか、海外旅行者の誘致を図り、体験型・滞在型観光を推進する。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 宿泊者数	8,285人 (H30)	8,279人		4,000人
(2) 施設利用者数	96,236人 (H30)	93,459人		103,000人

## これまでの主な動き

<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆<b>体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入態勢の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町立歴史民俗資料館「梶原千百年物語り」のリニューアルオープン (H29)</li> </ul> <p>◆<b>誘客活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行会社への誘客活動 (通年)</li> <li>・「環境の町」「龍馬脱藩の里」「セラピー基地・ロードによるいやしのまち」等を前面に出した旅行会社、企業、大学等へのセールスを実施</li> <li>・隈研吾ミュージアムの整備 (R元)</li> <li>・隈研吾建築案内ガイド開始 (R2.6～)</li> </ul> <p>◆<b>森林セラピー受入態勢の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・梶原町観光クラスター協議会開催 (H30: 3回)</li> <li>・久保谷森林セラピーロードでの新緑まつり・紅葉まつりの開催</li> <li>・久保谷森林セラピーロードの案内板及びパンフレットを多言語化にリニューアル (H30)</li> <li>・久保谷セラピーロードガイドウォーク (R元: 285人)</li> </ul>	<p>◆<b>受入基盤の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高知県観光拠点等整備事業を活用し、久保谷森林セラピーロードの増水時にも安全に渡ることができる架橋建設実施</li> <li>・雲の上のホテル・雲の上の市場解体 (R3.10～)</li> <li>・公園エリア (キャンプ場) の改修</li> <li>・雲の上の市場を温泉内に開設 (R3.11～)</li> <li>・(一社) ゆすはら雲の上観光協会設立 (R3.4)</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <p>◆<b>入込数</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・梶原千百年物語り来館者数 H29: 6,459人 → H30: 7,682人 → R元: 3,759人</li> <li>・太郎川公園内施設利用者数 H27: 110,914人 → H30: 134,500人 → R元: 93,459人</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光情報の発信・誘客活動の強化</li> <li>・観光客の受入態勢の整備</li> </ul>
---	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入態勢の充実	<p><b>梶原町の自然や文化を生かす取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●（一社）ゆすはら雲の上観光協会、梶原町商工会、梶原町、坂本龍馬脱藩の郷 ゆすはらであいの会：津野山神楽等ゆすはら座での地域資源を生かした体験プログラムの造成・磨き上げ、観光協会設立の検討、インバウンド対応のための取り組みを視野に入れたゆすはら座改修の検討、土佐の観光創生塾や関係する研修等の受講</li> <li>●県（地域本部等）：体験プログラムについて産業振興アドバイザー等の活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供、土佐の観光創生塾の受講、関係機関への橋渡し</li> </ul>				
◆誘客活動	<p><b>誘客のための情報発信</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●梶原町：「環境のまち」「龍馬脱藩の郷」「セラピーロードによるいやしのまち」等を前面に出した旅行会社、企業、大学等へのセールス及び販促ツールの作成、専門家を通じた情報発信のスキルアップ、ウェブサイトの開設</li> <li>●県（地域本部等）：SNSを活用するための産業振興アドバイザーの活用提案、土佐 MBA 等の講座等の紹介</li> </ul> <p><b>隈研吾氏設計による建築物を核とした観光資源の磨き上げ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●梶原町：オリジナル土産の開発、隈研吾氏設計の町内建築物を紹介する映像やパンフレットによるPR</li> <li>●県（地域本部等）：土産物の開発等に関するアドバイザーの活用、関係機関への橋渡し</li> </ul>				
◆森林セラピー受入態勢の強化	<p><b>森林セラピーの受入態勢の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●梶原町、松原まろうど会：久保谷森林セラピーロードの登録ガイド育成・スキルアップ</li> </ul>				
◆受入基盤の整備 （1）ホテル・道の駅  （2）太郎川公園エリア	<p><b>実施設計</b> → <b>施設整備（建築工事）</b> → <b>オープン</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●梶原町、商工会、（一社）ゆすはら雲の上観光協会：雲の上のホテル・道の駅のリニューアルオープンに向けた基盤整備</li> <li>●県（地域本部等）：整備等に向けた会議への参加、アドバイザーの導入提案、関係機関への橋渡し</li> </ul> <p><b>運営組織の設立</b></p> <p><b>太郎川公園整備順次実施（個別に設計・施工）</b></p>				
<p>【用語】 ・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的な SNS としては、Facebook などがある。</p>					

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.33 梶原町の体験型・滞在型観光の推進</b> (梶原町)
<b>実施主体</b>	◎ (一社) ゆすはら雲の上観光協会、梶原町商工会、梶原町、松原まろうど会、坂本龍馬脱藩の郷 ゆすはらであいの会
<b>APへの位置づけ</b>	H21.4月
<b>事業概要</b>	「坂本龍馬脱藩の郷」としての取り組みや、まち歩きやセラピーロードをはじめとした体験型観光を継続しながら、隈研吾施設を活用した新たな取り組みを推進する。また、住民主体のおもてなし、受入態勢や基盤の一層の充実を図り、環境・いやしのまち梶原の取り組みと併せて旅行会社、企業、大学などへの誘致活動のほか、海外旅行者の誘致を図り、体験型・滞在型観光を推進する。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 宿泊者数	8,285人 (H30)	8,279人			4,000人
(2) 施設利用者数	96,236人 (H30)	93,459人			103,000人

※(1)(2)とも R3.10月から雲の上ホテル、レストラン休館のため、R4年度以降、目標から除く。

これまでの主な動き

<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆<b>体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入態勢の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町立歴史民俗資料館「梶原千百年物語り」のリニューアルオープン (H29)</li> </ul> <p>◆<b>誘客活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行会社への誘客活動 (通年)</li> <li>・「環境の町」「龍馬脱藩の里」「セラピー基地・ロードによるいやしのまち」等を前面に出した旅行会社、企業、大学等へのセールスを実施</li> <li>・隈研吾ミュージアムの整備 (R元)</li> <li>・隈研吾建築案内ガイド開始 (R2.6～)</li> </ul> <p>◆<b>森林セラピー受入態勢の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・梶原町観光クラスター協議会開催 (H30:3回)</li> <li>・久保谷森林セラピーロードでの新緑まつり・紅葉まつりの開催</li> <li>・久保谷森林セラピーロードの案内板及びパンフレットを多言語化にリニューアル (H30)</li> <li>・久保谷セラピーロードガイドウォーク (R元:285人)</li> </ul>	<p>◆<b>受入基盤の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高知県観光拠点等整備事業を活用し、久保谷森林セラピーロードの増水時にも安全に渡ることができる架橋建設実施</li> <li>・雲の上のホテル・雲の上の市場解体 (R3.10～)</li> <li>・雲の上の市場を温泉内に開設 (R3.11～)</li> <li>・(一社) ゆすはら雲の上観光協会設立 (R3.4)</li> <li>・博覧会受入環境等整備事業において太郎川公園内の湿生植物園を整備 (R4.11～)</li> <li>・観光振興補助金を活用して太郎川公園内のきつつき学習館を整備 (R4.7～)</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公園エリア (キャンプ場) の改修 (R4.8完成)</li> <li>・太郎川公園再生計画におけるホテル・レストラン・道の駅についての基本構想策定 (課題一環支援型 AD 活用、R4.8～)</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光情報の発信・誘客活動の強化</li> <li>・観光客の受入態勢の整備</li> </ul>
---	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入態勢の充実	<b>梶原町の自然や文化を生かす取り組み</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社) ゆすはら雲の上観光協会、梶原町商工会、梶原町、坂本龍馬脱藩の郷 ゆすはらであいの会：津野山神楽等ゆすはら座での地域資源を生かした体験プログラムの造成・磨き上げ、観光協会設立の検討、インバウンド対応のための取り組みを視野に入れたゆすはら座改修の検討、土佐の観光創生塾や関係する研修等の受講</li> <li>●県(地域本部等)：体験プログラムについて産業振興アドバイザー等の活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供、土佐の観光創生塾の受講、関係機関への橋渡し</li> </ul>				
◆誘客活動	<b>誘客のための情報発信</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●梶原町：「環境のまち」「龍馬脱藩の郷」「セラピーロードによるいやしのまち」等を前面に出した旅行会社、企業、大学等へのセールス及び販促ツールの作成、専門家を通じた情報発信のスキルアップ、ウェブサイトの開設</li> <li>●県(地域本部等)：SNSを活用するための産業振興アドバイザーの活用提案、土佐 MBA 等の講座等の紹介</li> </ul>				
◆森林セラピー受入態勢の強化	<b>隈研吾氏設計による建築物を核とした観光資源の磨き上げ</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●梶原町：オリジナル土産の開発、隈研吾氏設計の町内建築物を紹介する映像やパンフレットによるPR</li> <li>●県(地域本部等)：土産物の開発等に関するアドバイザーの活用、関係機関への橋渡し</li> </ul>				
◆受入基盤の整備 (1) ホテル・道の駅	<b>森林セラピーの受入態勢の充実</b>			<b>基本計画の策定</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●梶原町、松原まろうど会：久保谷森林セラピーロードの登録ガイド育成・スキルアップ</li> </ul>			<b>実施設計</b>	
(2) 太郎川公園エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>●梶原町、商工会、(一社) ゆすはら雲の上観光協会：雲の上のホテル・道の駅のリニューアルオープンに向けた基盤整備</li> <li>●県(地域本部等)：整備等に向けた会議への参加、アドバイザーの導入提案、関係機関への橋渡し</li> </ul>			<b>運営組織の設立</b>	
	<b>太郎川公園整備順次実施(個別に設計・施工)</b>				
<p>【用語】・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的な SNS としては、Facebook などがある。</p>					

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.36 四国カルストを核とした交流人口の拡大と地域の活性化プロジェクト</b> (津野町)
<b>実施主体</b>	◎津野町、(一財)天狗荘
<b>APへの位置づけ</b>	R2.4月
<b>事業概要</b>	四国カルストエリア一体のブランド化を行い、知名度を高めることで交流人口の拡大と町内への周遊を促し、津野町全体の活性化を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 天狗荘の年間 宿泊者数	7,646人	2,750人		11,000人
(2) 四国カルストの 入込者数	75,012人	42,656人		110,000人

## これまでの主な動き

## ＜これまでの取り組みの内容＞

## ◆観光拠点整備

- ・観光の二大重点プロジェクト（天狗荘・せいらんの里のリニューアル）への着手（H29～R3）
- ・天狗荘リニューアル基本構想の策定（H30）
- ・天狗荘基本設計、実施設計の作成（H30～R2）
- ・星空観察・天文台設置のための民間連携協議（H30～）
- ・天狗荘周辺エリアの磨き上げの協議（H30～）
- ・四国カルストブランド化構想の策定（R元～）
- ・天狗荘リニューアル工事着手（R2～R3）
- ・星ふるヴィレッジ TENGU、遊山四万十 せいらんの里リニューアルオープン（R3）
- ・カルスト学習館設計着手（R2）、工事着手（R3）

## ◆受入態勢の強化

- ・天体観測望遠鏡等、星空観察グッズの整備（H27）
- ・観光施設等の整備／Wi-Fi整備（H30～）
- ・久万高原町等との連携協議（R元～）
- ・五藤光学研究所との包括連携協定締結（R2.12月）
- ・五藤光学研究所との星の連携会議（R2～）
- ・五藤光学研究所の職員を地域活性化企業人として受入（R3～）

- ・星のソムリエ養成講座の実施（R3～）
- ・Eバイク整備（R3）

## ◆観光商品の造成と磨き上げ

- ・星空観察会の開催（H26～）
- ・旅行会社向けプロモーション商談会に出展（H27）
- ・トウトク乗車体験（H28～）
- ・散策ガイドブックの作成（H29）
- ・県の観光キャンペーンや牧野植物園等と連携したイベント等の開催（津野山古式神楽（H28）、カルスト学習館での企画展（H30～）、セラピーロードへの樹木プレートの設置、植物観察ツアーなど）
- ・地域団体と連携した地域商品の販売（H29～）

## ＜主な成果＞

- ◆天狗荘外国人宿泊者数  
H26：55人 → R元：680人

## ＜課題＞

- ・天狗荘運営スタッフ、星空ガイドやセラピー・動植物ガイドなどの育成・確保
- ・四国カルストエリア全体での魅力ある観光商品づくり
- ・天狗荘を含めた四国カルスト全体でのPR
- ・アクセスや道路標識の改善
- ・プラネタリウム、天文台の運営スタッフの育成

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆ 観光拠点整備 (1)天狗荘  (2)天狗荘周辺エリア	施設整備		誘客のための情報発信、安定経営		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●津野町：天狗荘のリニューアルオープンに向けたハード・ソフト両面の基盤整備、情報発信</li> <li>●(一財)天狗荘：スタッフの接客スキル向上のための研修の実施、施設運営</li> <li>●県（地域本部等）：整備に向けた会議への参加、アドバイザーの導入提案</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●津野町：天狗荘への誘客のための各種媒体を活用した情報発信、訪問客のニーズの把握、施設運営への反映</li> <li>●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>		
	基本設計		拠点整備と磨き上げ		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●津野町、(一財)天狗荘：周辺エリアの魅力度向上のために必要な整備条件の洗い出し</li> <li>●県（地域本部等）：整備に向けた会議への参加、関係機関への橋渡し</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●津野町、(一財)天狗荘：県や民間事業者との事業連携</li> <li>●県（地域本部等）：整備に向けた会議への参加、関係機関への橋渡し</li> </ul>		
◆ 受入態勢の強化	人材確保・人材育成				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●津野町：就職・移住相談会等を活用した人材募集、星空案内やセラピー等ガイド養成講座の実施、アドバイザーの導入</li> <li>●県（地域本部等）：関係機関への橋渡し、アドバイザー導入提案、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				
	四国カルストエリア全体での受入強化				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一財)天狗荘：久万高原町など周辺地域と観光案内やイベントの実施、PR など</li> <li>●津野町：久万高原町など周辺地域と連携強化、周遊促進</li> <li>●県（地域本部等）：集落活動センターとの連携支援、関係機関への橋渡しなど</li> </ul>				
◆ 観光商品の造成と磨き上げ	地域資源を生かした観光商品の造成と磨き上げ				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一財)天狗荘：星や自然環境をテーマにしたご当地グルメや物産、体験プログラムなどの開発と磨き上げ、町内周遊とセットにした宿泊プランの販売、四国カルストの貴重な生態系等自然環境の維持・保全</li> <li>●津野町：牧野植物園等、環境系団体との連携強化、町内事業者や地域団体との連携支援、イベントの開催、情報発信など</li> <li>●県（地域本部等）：商品造成アドバイザーの導入提案、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>				
◆ 情報発信と誘客活動	PR 強化				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●津野町：メディア・SNS・情報誌など多様な媒体を活用したプロモーション活動、旅行会社等へのセールス活動、インバウンド向け PR の実施など</li> <li>●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>				

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.35 四国カルストを核とした交流人口の拡大と地域の活性化プロジェクト</b> (津野町)
<b>実施主体</b>	◎津野町、(一財)天狗荘
<b>APへの 位置づけ</b>	R2.4月
<b>事業概要</b>	四国カルストエリア一体のブランド化を行い、知名度を高めることで交流人口の拡大と町内への周遊を促し、津野町全体の活性化を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 天狗荘の年間 宿泊者数	7,646人	2,750人	7,668人		11,000人
(2) 四国カルストの 入込者数	75,012人	42,656人	109,463人		<u>148,000人</u>

※天狗荘は R3.7.7～「星ふるヴィレッジ TENGU」に名称変更

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆観光拠点整備

- ・観光の二大重点プロジェクト（天狗荘・せいらんの里のリニューアル）への着手（H29～R3）
- ・天狗荘リニューアル基本構想の策定（H30）
- ・天狗荘基本設計、実施設計の作成（H30～R2）
- ・星空観察・天文台設置のための民間連携協議（H30～）
- ・天狗荘周辺エリアの磨き上げの協議（H30～）
- ・四国カルストブランド化構想の策定（R元～）
- ・天狗荘リニューアル工事着手（R2～R3）
- ・星ふるヴィレッジ TENGU、遊山四万十 せいらんの里リニューアルオープン（R3）
- ・カルスト学習館設計着手（R2）、工事着手（R3）
- ・カルスト学習館（カルストテラス）リニューアルオープン（R4）

◆受入態勢の強化

- ・天体観測望遠鏡等、星空観察グッズの整（H27）
- ・観光施設等の整備／Wi-Fi整備（H30～）
- ・久万高原町等との連携協議（R元～）
- ・五藤光学研究所との包括連携協定締結（R2.12月）
- ・五藤光学研究所との星の連携会議（R2～）
- ・五藤光学研究所の職員を地域活性化起業人として

受入（R3～）

- ・星のソムリエ養成講座の実施（R3～）
- ・Eバイク整備（R3）

◆観光商品の造成と磨き上げ

- ・星空観察会の開催（H26～）
- ・旅行会社向けプロモーション商談会に出展（H27）
- ・トウトク乗車体験（H28～）
- ・散策ガイドブックの作成（H29）
- ・県の観光キャンペーンや牧野植物園等と連携したイベント等の開催（津野山古式神楽（H28）、カルスト学習館での企画展（H30～）、セラピーロードへの樹木プレートの設置、植物観察ツアーなど）
- ・地域団体と連携した地域商品の販売（H29～）

<主な成果>

- ◆天狗荘外国人宿泊者数  
H26：55人 → R元：680人

<課題>

- ・星ふるヴィレッジ TENGU やプラネタリウム、天文台の運営スタッフの育成、星空ガイドやセラピー・動植物ガイドなどの確保・育成
- ・四国カルストエリア全体での魅力ある観光商品づくり
- ・星ふるヴィレッジ TENGU を含めた四国カルスト全体でのPR
- ・アクセスや道路標識の改善



第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆ 観光拠点整備 (1)天狗荘（星ふるヴィレッジ TENGU）	施設整備		誘客のための情報発信、安定経営		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●津野町：天狗荘のリニューアルオープンに向けたハード・ソフト両面の基盤整備、情報発信</li> <li>●(一財)天狗荘：スタッフの接客スキル向上のための研修の実施、施設運営</li> <li>●県（地域本部等）：整備に向けた会議への参加、アドバイザーの導入提案</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●津野町：星ふるヴィレッジ TENGU への誘客のための各種媒体を活用した情報発信、訪問客のニーズの把握、施設運営への反映</li> <li>●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>		
(2)天狗荘（星ふるヴィレッジ TENGU）周辺エリア	基本設計		拠点整備と磨き上げ		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●津野町、(一財)天狗荘：周辺エリアの魅力向上のために必要な整備条件の洗い出し</li> <li>●県（地域本部等）：整備に向けた会議への参加、関係機関への橋渡し</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●津野町、(一財)天狗荘：県や民間事業者との事業連携</li> <li>●県（地域本部等）：整備に向けた会議への参加、関係機関への橋渡し</li> </ul>		
◆ 受入態勢の強化	人材確保・人材育成				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●津野町：就職・移住相談会等を活用した人材募集、星空案内やセラピー等ガイド養成講座の実施、アドバイザーの導入</li> <li>●県（地域本部等）：関係機関への橋渡し、アドバイザー導入提案、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				
◆ 観光商品の造成と磨き上げ	四国カルストエリア全体での受入強化				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一財)天狗荘：久万高原町など周辺地域と観光案内やイベントの実施、PR など</li> <li>●津野町：久万高原町など周辺地域と連携強化、周遊促進</li> <li>●県（地域本部等）：集落活動センターとの連携支援、関係機関への橋渡しなど</li> </ul>				
◆ 観光商品の造成と磨き上げ	地域資源を生かした観光商品の造成と磨き上げ				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一財)天狗荘：星や自然環境をテーマにしたご当地グルメや物産、体験プログラムなどの開発と磨き上げ、町内周遊とセットにした宿泊プランの販売、四国カルストの貴重な生態系等自然環境の維持・保全</li> <li>●津野町：牧野植物園等、環境系団体との連携強化、町内事業者や地域団体との連携支援、イベントの開催、情報発信など</li> <li>●県（地域本部等）：商品造成アドバイザーの導入提案、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>				
◆ 情報発信と誘客活動	PR 強化				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●津野町：メディア・SNS・情報誌など多様な媒体を活用したプロモーション活動、旅行会社等へのセールス活動、インバウンド向け PR の実施など</li> <li>●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>				

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.37 わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり (四万十町)</b>
<b>実施主体</b>	◎四万十町、(株)海洋堂、(株)奇想天外
<b>APへの 位置づけ</b>	H21.4月
<b>事業概要</b>	「海洋堂ホビー館四万十」の校舍等を企画展示や体験教室として整備し、四万十町の観光拠点としてブラッシュアップを図るとともに、四万十川流域の豊かな自然や食、伝統文化など四万十町全体の魅力ある資源を有効に組み合わせ、さらなる観光交流人口の拡大を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
ホビー館年間入場客数	2.7万人 (H30)	3.4万人		5万人

これまでの主な動き

＜これまでの取り組みの内容＞

◆海洋堂ホビー館四万十の付帯施設の整備

- ・(株)海洋堂との連携により、廃校となった小学校を活用した「海洋堂ホビー館四万十」の整備・開館 (H23)
- ・誘導案内看板や第2駐車場の整備、臨時駐車場の設置 (H24～26)
- ・第2駐車場内への簡易水洗トイレの設置 (H28)

◆ミュージアム機能及び体験交流機能の強化・充実

- ・各種企画展の開催 (H23～)
- ・全国初のミュージアム列車ホビートレインの運行を開始 (H23～)
- ・「谷小屋」(ホビー館に隣接した地元住民による食堂) オープン (H23)
- ・打井川バイパスの開通により大型観光バスの乗り入れが可能となった (H27)
- ・ホビートレインを「かっぱようよう号」へリニューアル (H28)
- ・インバウンド商談・オプションツアーのPR (H29)

◆関連機関との連携した取り組み

- ・「海洋堂かっぱ館」のオープン (H24)
- ・ホビー館とかっぱ館の連携した企画展の開催 (H24～)

＜主な成果＞

◆常勤雇用者数

H27:5人 → H30:7人

＜課題＞

- ・来館者の満足度アップの為の仕掛けづくり(滞在時間の延長)
- ・ホビー館施設の老朽化等
- ・集客力のある企画展・町周遊企画(スタンプラリー)の開催
- ・さらなる誘客促進及びリピーターの確保
- ・コロナ感染症対策を考慮したホビー館改修、運営方法の検討

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆海洋堂ホビー館四万十の付帯施設の整備	<b>ホビー館改修</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十町、(株)海洋堂、(株)奇想天外：施設の老朽化に伴う改修工事、滞在時間の延長を促す仕組み作り</li> <li>●県（地域本部等）：魅力ある館改修のための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>		<b>改修に伴うPR活動及び効果検証</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十町、(株)海洋堂、(株)奇想天外：改修した施設の効果的な活用、及び積極的なPR</li> <li>●県（地域本部等）：効果的なPRのための産業振興アドバイザーの活用提案</li> </ul>		
◆ミュージアム機能及び体験交流機能の強化・充実	<b>ミュージアム機能及び体験交流機能の強化と充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十町、(株)海洋堂、(株)奇想天外：魅力ある企画展、イベントの開催や町周遊企画の開催、町内の小・中学校での体験教室の開催や予土線を活用した集客とPR、オリジナル土産物商品開発・販売、広報・営業活動</li> <li>●県（地域本部等）：新たな企画開発の産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				
◆関連機関との連携した取り組み	<b>かっぱ館との連携</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十町、(株)海洋堂、(株)奇想天外：企画展・イベント開催、町周遊企画との連携</li> <li>●県（地域本部等）：魅力ある企画・商品作りのための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				
	<b>南国市に整備する新たな施設との連携の検討</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十町、(株)海洋堂、(株)奇想天外、南国市：連携に向けた検討会の開催</li> <li>●県（地域本部等）：物部川地域本部との連携による活動支援</li> </ul>	<b>南国市に整備する新たな施設との連携</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十町、(株)海洋堂、(株)奇想天外、南国市：連携した取り組みによる誘客の促進</li> <li>●県（地域本部等）：物部川地域本部との連携による活動支援</li> </ul>			

高幡地域アクションプラン

分野

観光

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.36 わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり (四万十町)</b>
<b>実施主体</b>	◎四万十町、(株)海洋堂、(株)奇想天外
<b>APへの 位置づけ</b>	H21.4月
<b>事業概要</b>	「海洋堂ホビー館四万十」の校舍等を企画展示や体験教室として整備し、四万十町の観光拠点としてブラッシュアップを図るとともに、四万十川流域の豊かな自然や食、伝統文化など四万十町全体の魅力ある資源を有効に組み合わせ、さらなる観光交流人口の拡大を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
ホビー館年間入場客数	2.7万人 (H30)	2.1万人	2.2万人		5万人

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆海洋堂ホビー館四万十の付帯施設の整備

- ・(株)海洋堂との連携により、廃校となった小学校を活用した「海洋堂ホビー館四万十」の整備・開館 (H23)
- ・誘導案内看板や第2駐車場の整備、臨時駐車場の設置 (H24～26)
- ・第2駐車場内への簡易水洗トイレの設置 (H28)
- ・ホビー館の休憩施設、販売スペース等の拡充に伴うリニューアル (R4)

◆ミュージアム機能及び体験交流機能の強化・充実

- ・各種企画展の開催 (H23～)
- ・全国初のミュージアム列車ホビートレインの運行を開始 (H23～)
- ・「谷小屋」(ホビー館に隣接した地元住民による食堂) オープン (H23)
- ・打井川バイパスの開通により大型観光バスの乗り入れが可能となった (H27)
- ・ホビートレインを「かっぱうよう号」へリニューアル (H28)
- ・インバウンド商談・オプションツアーのPR (H29)
- ・産業振興アドバイザー(課題解決型)の活用による経済波及効果算出と今後の目標策定支援 (R3)

◆関連機関との連携した取り組み

- ・「海洋堂かっぱ館」のオープン (H24)
- ・ホビー館とかっぱ館の連携した企画展の開催 (H24～)

<主な成果>

◆常勤雇用者数

H27:5人 → H30:7人

<課題>

- ・来館者の満足度アップの為の仕掛けづくり(滞在時間の延長)
- ・集客力のある企画展・町周遊企画(スタンプラリー)の開催
- ・さらなる誘客促進及びリピーターの確保

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆海洋堂ホビー館四万十の付帯施設の整備	ホビー館改修		改修に伴うPR活動及び効果検証	PR活動の強化	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十町、(株)海洋堂、(株)奇想天外：施設の老朽化に伴う改修工事、滞在時間の延長を促す仕組み作り</li> <li>●県（地域本部等）：魅力ある館改修のための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十町、(株)海洋堂、(株)奇想天外：改修した施設の効果的な活用、及び積極的なPR</li> <li>●県（地域本部等）：効果的なPRのための産業振興アドバイザーの活用提案</li> </ul>		
◆ミュージアム機能及び体験交流機能の強化・充実	ミュージアム機能及び体験交流機能の強化と充実				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十町、(株)海洋堂、(株)奇想天外：魅力ある企画展、イベントの開催や町周遊企画の開催、町内の小・中学校での体験教室の開催や予土線を活用した集客とPR、オリジナル土産物商品開発・販売、広報・営業活動</li> <li>●県（地域本部等）：新たな企画開発の産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				
◆関連機関との連携した取り組み	かっぱ館との連携				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十町、(株)海洋堂、(株)奇想天外：企画展・イベント開催、町周遊企画との連携</li> <li>●県（地域本部等）：魅力ある企画・商品作りのための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				
	南国市に整備する新たな施設との連携の検討	南国市に整備する新たな施設との連携			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十町、(株)海洋堂、(株)奇想天外、南国市：連携に向けた検討会の開催</li> <li>●県（地域本部等）：物部川地域本部との連携による活動支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十町、(株)海洋堂、(株)奇想天外、南国市：連携した取り組みによる誘客の促進</li> <li>●県（地域本部等）：物部川地域本部との連携による活動支援</li> </ul>			

高幡地域アクションプラン		分野	観光
AP名 (実施地域)	No.39 四万十町オアシス風観光交流拠点施設整備事業 (四万十町)		
実施主体	◎四万十町、(株)あぐり窪川、地域団体		
APへの位置づけ	R2.4月		
事業概要	高速道路の延伸を見据え、窪川中央インターから窪川地区、大正地区、十和地区への交流人口の拡大など人の流れをつくるため、花などをテーマとした全町的な展開で、事業・拠点施設整備を実施することにより、新たな観光客等を含め町内での滞留・滞在を推進する。また、町内への周遊促進による商工・観光事業者の所得向上と地域の活性化に繋げる。		

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
道の駅※集客数	43.3万人 (H30)	34.7万人		54万人

※道の駅あぐり窪川、道の駅四万十大正、道の駅四万十とおわ

これまでの主な動き	
<p>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</p> <p>◆受入態勢の充実・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奥四万十博関連イベント/体験プログラム造成（継続）</li> <li>・自然体験型観光キャンペーン関連 町内施設整備や体験プログラムの造成（H29～）</li> <li>・インバウンド観光推進事業（H30～）</li> </ul> <p>◆観光交流拠点の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光拠点施設等整備事業（継続）</li> <li>・こいのぼり公園再生整備事業（R元）</li> <li>・四万十川アドベンチャーパーク整備事業（R元～） （ジップライン）</li> <li>・基本構想策定に向けた実行可能性調査の実施（R2）</li> </ul> <p>◆周遊、滞留・滞在型観光の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奥四万十観光磨き上げ事業の実施（継続）</li> <li>・幕末維新博連携事業の実施（H29～30）</li> <li>・自然体験型観光キャンペーン関連事業の実施（R元～）</li> <li>・町内各事業所と連携した町内周遊企画の実施（R元～）</li> <li>・観光列車活用事業（R元～）</li> </ul>	<p>&lt;主な成果&gt;</p> <p>◆主要観光施設等利用者数 H22：80万人 → R2：34.7万人</p> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内での周遊、滞留・滞在時間の延長による地域への経済効果を生み出す取り組み</li> <li>・観光資源の磨き上げ、交流人口拡大につなげるための仕掛けや体制の強化</li> <li>・総合交流拠点である、町内3か所の道の駅の利用者の増加とともに3か所を拠点とした各地域への周遊・集客による地域経済の活性化につながる事業の実施</li> </ul>

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆受入態勢の充実・整備	<p>受入態勢の充実・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十町、(一社)四万十町観光協会、四万十町商工会等： 四万十川流域等での交流拠点（道の駅3か所を含む）核とした周遊ルートの作成、旅行会社へのセールス、旅行雑誌等へのプロモーション</li> <li>●四万十町、地域団体等： オアシス風観光交流拠点の活用・運営等について、地域団体との調整・協議、町内各地にある既存の取り組みの磨き上げ、連携した取り組み協議</li> <li>●県（地域本部等）： 魅力ある周遊ルートや受入態勢整備のための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				
	◆観光交流拠点の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十町等： オアシス風観光交流拠点施設基本計画策定</li> <li>●県（地域本部等）： 拠点施設整備のための産業振興アドバイザーの活用提案</li> </ul>		<p>基本計画策定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十町等： オアシス風観光交流拠点施設整備工事</li> <li>●県（地域本部等）： 拠点施設整備のための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>	<p>施設整備</p>
◆周遊、滞留・滞在型観光の推進		<p>花をテーマにした施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十町等： 各地域での花をテーマとした施設の整備（R2～）</li> <li>●県（地域本部等）： 施設整備のための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>			
	◆周遊、滞留・滞在型観光の推進	<p>情報発信力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十町、(一社)四万十町観光協会、四万十町商工会等： 観光案内板設置等によるPR、道の駅等拠点との連携による情報発信、町内周遊観光促進事業の実施</li> <li>●県（地域本部等）： 滞在型観光推進のための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>			

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.38 四万十町オアシス風観光交流拠点施設整備事業</b> (四万十町)
<b>実施主体</b>	◎四万十町、(株)あぐり窪川、地域団体
<b>APへの 位置づけ</b>	R2.4月
<b>事業概要</b>	高速道路の延伸を見据え、窪川中央インターから窪川地区、大正地区、十和地区への交流人口の拡大など人の流れをつくるため、花などをテーマとした全町的な展開で、事業・拠点施設整備を実施することにより、新たな観光客等を含め町内での滞留・滞在を推進する。また、町内への周遊促進による商工・観光事業者の所得向上と地域の活性化に繋げる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
道の駅※集客数	43.3万人 (H30)	34.7万人	35.6万人		54万人

※道の駅あぐり窪川、道の駅四万十大正、道の駅四万十とおわ

これまでの主な動き	
<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆<b>受入態勢の充実・整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奥四万十博関連イベント/体験プログラム造成（継続）</li> <li>・自然体験型観光キャンペーン関連 町内施設整備や体験プログラムの造成（H29～）</li> <li>・インバウンド観光推進事業（H30～）</li> </ul> <p>◆<b>観光交流拠点の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光拠点施設等整備事業（継続）</li> <li>・こいのぼり公園再生整備事業（R元）</li> <li>・四万十川アドベンチャーパーク整備事業（R元～）（ジップライン）</li> <li>・基本構想策定に向けた実行可能性調査の実施（R2）</li> </ul> <p>◆<b>周遊、滞留・滞在型観光の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奥四万十観光磨き上げ事業の実施（継続）</li> <li>・幕末維新博連携事業の実施（H29～30）</li> <li>・自然体験型観光キャンペーン関連事業の実施（R元～）</li> <li>・町内各事業所と連携した町内周遊企画の実施（R元～）</li> <li>・観光列車活用事業（R元～）</li> </ul>	<p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <p>◆<b>主要観光施設等利用者数</b> H22：80万人 → R3：35.6万人</p> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内での周遊、滞留・滞在時間の延長による地域への経済効果を生み出す取り組み</li> <li>・観光資源の磨き上げ、交流人口拡大につなげるための仕掛けや体制の強化</li> <li>・総合交流拠点である、町内3か所の道の駅の利用者の増加とともに3か所を拠点とした各地域への周遊・集客による地域経済の活性化につながる事業の実施</li> </ul>



第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ 受入態勢の充実・整備	<p><b>受入態勢の充実・整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 四万十町、(一社)四万十町観光協会、四万十町商工会等： 四万十川流域等での交流拠点（道の駅3か所を含む）核とした周遊ルート作成、旅行会社へのセールス、旅行雑誌等へのプロモーション</li> <li>● 四万十町、地域団体等： オアシス風観光交流拠点の活用・運営等について、地域団体との調整・協議、町内各地にある既存の取り組みの磨き上げ、連携した取り組み協議</li> <li>● 県（地域本部等）： 魅力ある周遊ルートや受入態勢整備のための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				
◆ 観光交流拠点の整備	<p><b>基本計画策定</b> → <b>実施設計等</b> → <b>施設整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 四万十町等： オアシス風観光交流拠点施設基本計画策定</li> <li>● 県（地域本部等）： 拠点施設整備のための産業振興アドバイザーの活用提案</li> <li>● 四万十町等： <u>オアシス風観光交流拠点施設実施設計、土地造成</u></li> <li>● 県（地域本部等）： 拠点施設整備のための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報</li> <li>● 四万十町等： <u>オアシス風観光交流拠点施設整備工事</u></li> </ul> <p><b>花をテーマにした施設整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 四万十町等： 各地域での花をテーマとした施設の整備（R2～）</li> <li>● 県（地域本部等）： 施設整備のための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				
◆ 周遊、滞留・滞在型観光の推進	<p><b>情報発信力の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 四万十町、(一社)四万十町観光協会、四万十町商工会等： 観光案内板設置等によるPR、道の駅等拠点との連携による情報発信、町内周遊観光促進事業の実施</li> <li>● 県（地域本部等）： 滞在型観光推進のための産業振興アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				